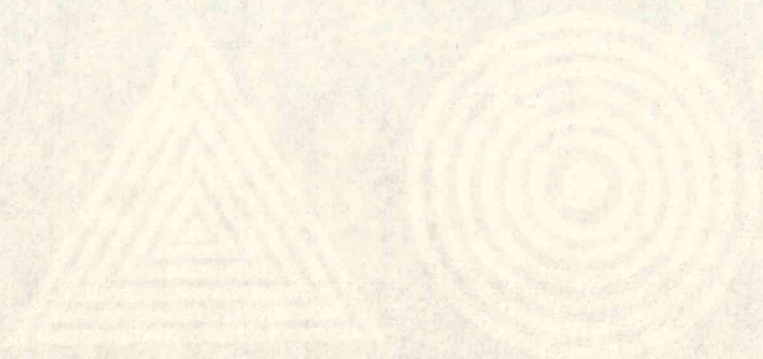


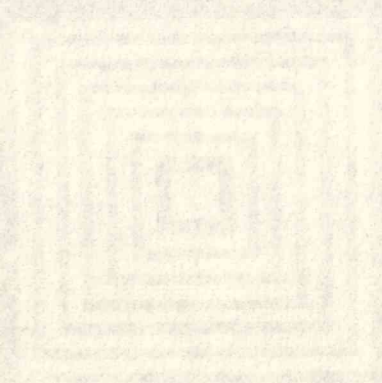
1998年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画



1988年
講義計画



山形大学

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学概論		通期	4単位	熊谷 次郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>世界の歴史を動かしているのは、宗教と経済であると喝破したのはケンブリッジ大学の経済学者であったアルフレッド・マーシャルであるが、われわれはこの洞察が真実であることを日常の生活で実感している。</p> <p>ところでその世界であるが、世界のどこへ諸君が行くことも、大学で経済学を学んだと言えミクロ（市場と価格のメカニズム）とマクロ（国民総生産や国民所得概念を中心とする経済成長・循環、金融・財政政策等）は知っているものとみなされよう。経済学にもいろいろあり、ほとんど文学、あるいは哲学といてもいい分野も実はある。そうした経済学の奥行きの高さは高学年に進むにつれてわかってくると思うが、ミクロとマクロなるものは経済学の基礎のまたその基礎であり、これだけは最低限知っておかなければならない。</p> <p>だからこの講義でもミクロとマクロを大骨格として組み立てられる。しかしそれだけにおとどまらず、経済学という学問の持つ広さ、深さ、豊かさを知ってもらえるような講義にしたいと思っている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期>経済学では人間や社会をどう捉らえるのかといった問題を、経済学の歴史と関連させながら考える。ついで需要、供給、価格、市場の調整機構とってミクロ経済学の基礎を講義する。</p> <p><後期>マクロ経済学にかかわる問題を取り上げる。ストックとフロー、国内総生産と国民所得、経済の成長と変動、財政と金融、貿易と外国為替、などについて概括的な説明を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期の計2回の試験を総合して評価する。出欠は適宜とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は使用しない。その代わりにほぼ毎回プリントを配布する。プリントだけもらって教室を出ていく諸君がいたら、そういう場合は即座に履修取り消しするのでそのつもりでほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代経済概説		通 期	4単位	鈴 木 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目標は、日々報じられる世界と日本の政治・経済に関わるニュースに接して、その全体的な脈絡に「関心」を向けられる程度に受講生の政治・経済的な「知識」の水準を高めることにある。</p> <p>とりあげるテーマの一例を示しておこう。北海道拓殖銀行・山一証券などの銀行・証券会社の経営破綻が続いているが、それはなぜ起こるのか、その本質的な意味は何か。政府は「金融システムの安定」という口実のもとに30兆円の税金を投入しようとしているが、それは国民の立場からみて正当なことなのか。「規制緩和」のスローガンのもとに政治・経済システムの大転換が進められようとしているが、その本質的な意味は何か、国民にとって必要な「規制緩和」とはどのようなものでなければならないのか、・・・等々である。</p> <p>とりあげるテーマは多岐にわたるが、受講生の要望も聞きながら、できるかぎり現代の政治・経済現象の意味を理解するうえで有効なテーマをとりあげ解説的に講義を進めることにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、年間講義計画の概要 ・第2回、金融機関の経営破綻① ・第3回、金融機関の経営破綻② ・第4回、金融機関の経営破綻③ ・第5回、規制緩和とは何か① ・第6回、規制緩和とは何か② ・第7回、規制緩和とは何か③ ・第8回、国家予算について① ・第9回、国家予算について② ・第10回、日本の経済システム① ・第11回、日本の経済システム② ・第12回、日本の経済システム③ ・第13回、日米の政治・経済関係① ・第14回、日米の政治・経済関係② ・第15回、日米の政治・経済関係③ ・第16回、日米の政治・経済関係④ ・第17回、国民経済の「崩壊」① ・第18回、国民経済の「崩壊」② ・第19回、国民経済の「崩壊」③ ・第20回、多国籍企業と大競争① ・第21回、多国籍企業と大競争② ・第22回、多国籍企業と大競争③ ・第23回、国民本位の経済システム① ・第24回、国民本位の経済システム② 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>・テーマの終了毎に提出してもらったレポート（10回）の提出回数と内容によって評価する。レポートの評価は毎回返却する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>・そのつどテーマ毎に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用しない。 ・テーマ毎にレジュメを用意する。 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一 般 経 済 史		通 期	4 単 位	梅 本 哲 世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ソ連・東欧などのいわゆる「社会主義国」の崩壊によって、あたかも「資本主義」の優位性が実証されたかのように論じる見解も多い。しかし、資本主義は、環境破壊、核兵器の脅威、民族紛争、失業、恐慌など多くの問題点を抱えている。このような時代であるからこそ、目を過去に向けて、資本主義の生成と発展の過程を科学的に分析する必要があるだろう。この講義では、まず経済史を学ぶ場合に必要な基本概念を説明し、その後、前資本主義的な生産様式の発展過程を検討する。さらに、資本主義がいかんして封建社会の中から発生し発展していったかを、移行期・産業資本主義・独占資本主義にわけて説明する。</p> <p>この講義を通じて、資本主義の持つ独自の歴史的性格を明らかにしたい。過去を振り返ることにより、未来を見通す能力を身につけることが、この講義の目標である。歴史に興味と関心を持つ学生諸君の受講を歓迎する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済史研究の対象と方法 2. 前資本主義的経済の発展過程 <ol style="list-style-type: none"> (1) アジア的生产様式 (2) 奴隷制 (3) 農奴制 3. 封建制から資本主義への移行 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業資本主義の発展過程 2. 独占資本主義の発展過程 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の結果により評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>芝原拓自 (著) 『所有と生産様式の歴史理論』 (青木書店) 中村静治 (著) 『生産様式の理論』 (青木書店) 堀江英一 (著) 『経済史入門』 (有斐閣双書) その他、必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学のための数学入門		通 期	4 単 位	安 藤 洋 美
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>19世紀の偉大な物理学者ギブスは「数学もまた言語なり」と言った。この言葉は20世紀の経済学者サミュエルソンがその著『経済分析の基礎』の巻頭に書き付けた。このことから分かるように、数学は書き言葉だけの一種の言語である。だから、どんな科学でも、それが取り扱う研究対象を精密に表現しようとする、日常言語より数学言語の方が便利であることが多い。この講義では経済学の学習でよく用いられる数学的手法のうち、極めて基本的なものを中心に紹介したい。内容は主として線形代数と微分積分に関するものになる。出席常ならざれば、すぐさま理解の範疇外に落ちることは明白である。テキストにある練習題も自学自習して理解を深めてもらいたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> (線形代数) ベクトルと行列；1次変換の表現；行列式；逆行列と連立方程式；行列の階数；固有値と固有ベクトル；線形計画法；産業関連分析。</p> <p><後期> (微分積分) 微分の基礎；関数の極大・極小；初等関数の微分；偏微分とその応用；不定積分、定積分の応用；簡単な微分方程式。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験による</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>矢野健太郎・田代嘉弘 (共著) 『社会科学者のための基礎数学』 (裳華房)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学導入特講 (年金と保険の数理)		通期	4 単位	安藤 洋美
[講義概要・学習目標] 現在、年金や保険という言葉は福祉と関連付けてとらえられている。しかし歴史的に見れば、年金は国家財政の窮乏を補うためや戦費調達のため、保険は海難事故により生ずる積み荷の損失の賠償のため工夫されたものである。従って必ずしも個人個人の救済を考えてのことではなかった。ところが17世紀以降、統計調査技術の進歩と確率論の発展に伴い、年金購入や保険料支払いの合理的根拠が示されるようになり、かつての大衆収奪の手段だったものが、そうでなくなって行った過程を、歴史的・数理的に考察して行く。	[講義計画] ＜前期＞年金と保険の歴史的考察、政治算術との関係、貯金と利息について、確率論について、特に生命確率について ＜後期＞年金の種類と年金原価の計算、保険料の計算について			
[成績評価の方法] 期末試験	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学		通 期	4 単位	清 水 夏 樹
[講義概要・学習目標] 集団、組織、ネットワーク、地域社会、福祉文化といった基礎概念をまはしこことから始め、社会学的な見方、とらえ方とはどういうことかを理解できるように講述する。社会学は、他の社会科学に較べて若く、その未熟な部分もつ反面、社会学的な視角(必要側面)が近年認められつつある。そのかくれた面白さと論点をかいまみつつ日常的なトピックスにも眼を向けてみたい。現代社会を生き出した歴史性とアイデンティティの基礎と問いの姿勢を忘れないで学んでほしいと思う。	[講義計画] ＜前期＞ 社会的自我の発達、言葉とコミュニケーション、役割と組織、個人と大衆社会、集合行動とゲームの相互性、文化と行動様式、共同体社会と集合表象、準拠集団の準拠性レベル ＜後期＞ 階級と階層、宗教と経済社会、近代化とポスト工業社会、情報ネットワーク化と文化的協同体、消費社会と新しい集団準拠性			
[成績評価の方法] 学年末試験以外に、簡易レポート、同テスト等の成績を加味評価する。	[参考文献] 「青年文化の聖・俗・遊」(恒思社厚生閣) 「柔かな個人主義の誕生」(中公文庫)			
[教科書] 最初の授業を指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学		通 期	4 単位	亀 田 速 穂
<p>[講義概要・学習目標] 経営学は現代社会における重要な経済活動単位である企業という組織の行動を体系的に説明しようとする学問である。企業の行動に影響を及ぼす要因は多様であるが、大別して、経営者の方針、仕事を遂行する仕組みとしての組織構造のあり方、構成メンバーのモラル（やる気）といった企業の内部組織要因と、産業の競争構造、技術水準、人口動態、法規制などの外部環境要因とがある。企業は外部環境要因からの影響を制約として（また働きかけの対象として）受け止めつつ、そうした制約の中で、これら2つの要因（企業の内部組織要因と外部環境要因）の間に2重の適合関係を保持しようとして、かなりの自由裁量を持って自らの行動を決めている。この授業ではこのような企業の行動をより深く理解する上で必要な基礎的な知識や考え方を身につけることを目的とする。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1 経営学の生成と展開 2 企業と経営 3 企業形態の展開 4 所有と経営の分離 5 現代経営者の役割と課題</p> <p>(後期) 6 経営管理の発展と体系 7 経営環境と経営戦略 8 職能分化と組織構造 9 組織成員と動機づけ 10 環境変化と組織変革</p>		
<p>[成績評価の方法] 前期はレポート（400字詰め5枚程度）、後期は試験を課し、両者を総合して成績を評価する。したがって、後期の試験だけでは単位の修得は困難である。なお、出欠状況を評価に加味することがある。</p>		<p>[参考文献] 伊藤淳巳・西門正巳・亀田速穂（共著）『現代経営学の生成発展』（白桃書房） 土屋守章（著）『現代経営学入門』（新世社）</p>		
<p>[教科書] 植村省三（著）『現代の経営学』（中央経済社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法 学	0 1	通 期	4 単位	吉 見 研 次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>概 要 市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。</p> <p>目 標 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1 社会生活と法 2 憲法 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 3 民法 1) 総則 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 4 行政法 1) 行政行為 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 地方行政組織</p>		
<p>[成績評価の方法] 学年末テストの成績で評価する。テストはB4判用紙数枚を使った短答式のものを予定している。</p>		<p>[参考文献] 伊藤正巳・尾吹善人・樋口陽一・戸松秀典（共著）『注釈憲法』（有斐閣） 幾代通・遠藤浩（共編）『民法入門』（有斐閣） 原田尚彦・小高剛・田村悦一・遠藤博也（共著）『行政法入門』（有斐閣） 金子宏・新堂幸司・平井宜雄（共編）『法律学小辞典』（有斐閣）</p>		
<p>[教科書] 芦部信喜 他（共編）『コンパクト六法平成10年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	02	通期	4単位	寺田友子
<p>〔講義概要・学習目標〕 学習目標 刑事手続を素材に日本国憲法の人権保障について理解を深める。 講義概要 日本国憲法は、明治憲法下の人権侵害を反省して詳細な人権保障条項を規定した。日本国憲法制定史をも踏まえて、国家の国民に対する権力行使である刑罰権の発動にかかわる罪刑法定主義を理解する。その前提として、刑罰の意義及び種類並びに犯罪成立要件についての基礎的知識をも体得する。安楽死判決を素材に、それまでの基本的知識を整理し、理解を深める。その判決を学ぶ過程で、法源の機能、法の適用過程等について理解する。 次に、日本国憲法の最高法規性を学んだ上で、死刑の合憲判決、尊属殺人罪違憲判決を詳細に検討する。その過程で家族法に関する基本的概念を学ぶ。又平等原則についても理解を得たうえで、非嫡出子の相続分規定の合憲判決も検討する。 その上で、法源の種類（憲法の意義、条約、法律、命令、条例、最高裁判所規則、議院規則）、形式的効力等法の効力等についても憲法訴訟（砂川事件、奈良県ため池条例事件、徳島県公安条例事件、NHK放送公布事件、官報公布事件等々）を素材に理解を深める。その際、三権分立等国家の機構についても理解する。これらの憲法訴訟判決を学ぶ過程で、人権保障の内容（刑事補償と国家賠償）と憲法の最高法規性、違憲法令審査制度についても理解を深める。</p>	<p>〔講義計画〕 前期 §1 刑罰の種類 2 犯罪成立要件 3 法の適用過程 4 安楽死訴訟 5 憲法の最高法規性と違憲法令審査制度 6 死刑の合憲判決 7 尊属殺人罪と家族法の基礎概念 8 平等原則と尊属殺人罪違憲判決 後期 9 法治国家と罪刑法定主義 10 命令概念と行政機構 11 全農林警職法事件と労働基本権 12 条例概念と大阪市売春防止条例 13 奈良県ため池条例事件と徳島条例事件 14 形式的効力の原則と条約の概念 15 法の時間的効力と公布をめぐる諸般決 16 同位の法間の効力関係と国家補償 17 損害賠償における特別法と一般法</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等評価に加味する場合がある。</p>	<p>〔参考文献〕 中谷実編『ハイブリッド憲法』1995年 勁草書房 渡辺洋三著『法とは何か』岩波書店 渡辺洋三著『法を学ぶ』岩波書店</p>			
<p>〔教科書〕 声部信喜他11名編『コンパクト六法 平成10年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科学入門		通期	4単位	大澤健
<p>〔講義概要・学習目標〕 「社会科学」と言われても少しとつきにくいかもしれませんが、要するに社会の中の様々な問題について考え、それを学問としてまとめたものことです。それゆえ、「社会科学」は「社会問題」の存在と密接に結びついています。この講義では、「社会科学」の入り口として様々な「社会問題」に触れてもらいたいと考えています。まずはビデオを見ながら問題の存在を知り、それがなぜ生じるのか、そして、どうしたら解決できるのか、を考えながら「社会科学」としてのもののか考え方について知ってもらおうと思っています。</p>	<p>〔講義計画〕 講義の大半は実際にビデオを見てもらって、考えてもらうことに向けられます。その間に問題へアプローチしていくための考え方を講義していきます。 【前期】1・公害問題、環境問題 2・労働問題 3・市場経済のパワー 社会を「進歩」させるものとしての市場経済 【後期】4・不況の発生、失業問題 5・戦争 6・商品経済と「国家」の役割 7・国家と民族問題</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 原則として試験の点数による。ただし、ビデオを見てもらった後に簡単なレポート（感想文）を提出してもらい、それを「加点」要素として評価します。まめにレポートを出しても良いですし、試験で勝負してもかまいません。</p>	<p>〔参考文献〕 講義の中で適宜指示する。</p>			
<p>〔教科書〕 用いない。なるべくならば、講義にまめにノートを出して充実させることを心がけてほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		通 期	4 単位	尾 崎 耕 司
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
近年、都市の問題から日本近代史をみなおそうとする動きが活発となっている。本講義では、最近の研究の成果を紹介しながら、主に明治から大正期にかけての日本近代都市のあり方を検討する。	序 章 都市をどうとらえるか？ 第1章 都市「名望家支配」について 第2章 都市下層社会論 第3章 都市と官僚 第4章 都市行政の社会的基盤 第5章 都市と政治 終 章			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
評価は、レポートをもっておこなう。	原田敬一著『日本近代都市史研究』 (1997年、思文閣出版) ほか			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A - 1 (ミクロ経済学)	01	通 期	4 単位	駿 河 輝 和
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
現代経済における市場の果たす役割を理解することと、現実経済分析に必要な価格理論の考え方を習得することを目的としている。	需要と供給、消費者行動、生産者行動、競争市場と効率性、独占寡占、市場の失敗など市場の働きについて講義する。			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
試験				
[教科書]				
倉澤資成著『入門価格理論 第2版』日本評論社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-1 (ミクロ経済学)	02	通 期	4 単位	竹 歳 一 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ミクロ経済学の基礎理論について講義する。①家計(消費者)、企業(生産者)といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか、②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか、③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるのか、といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。</p> <p>ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では数式の使用は極力避け、主に図を用いて説明する。なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学とは 2. 需要と供給 3. 消費者行動の理論 4. 生産者行動の理論 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 市場均衡と経済厚生 6. 独占の理論 7. 生産要素市場 8. 不確実性と情報 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験、学年末試験の成績による</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>西村和雄(著)『ミクロ経済学』(岩波書店)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-1 (ミクロ経済学)	03	通 期	4 単位	三 邊 信 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は資本主義経済に特有な自由競争市場の基本的構造を解説することである。その基本となるのは「均衡」概念であるが、均衡は需要と供給の一致によって決まる。資本主義経済は様々な市場より形成されている。消費財を取扱う財貨市場、労働雇用を取扱う労働市場、投資水準を決める投資財市場、利子率を決定する貨幣市場、外国為替市場、さらには貯蓄、投資の均衡と問題とする国内均衡と輸出入額均衡と問題とする国際均衡等々、およびこれら様々な市場の相互関係について授業の中で説明する。すべての市場において、均衡は需要と供給の一致によって決まるとするのが大原則である。しかし各市場によって、それに参加する個人または企業は異なる目標をもち、その動機も異なる。この講義では、これら各市場の需要曲線と供給曲線が如何にして決定されるかを中心に説明し、これら各市場の相互関係について解説する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財貨市場の均衡、効用関数と生産関数、部分均衡と一般均衡分析における需要関数と供給関数 2. 経済用語の概念規定、主要費用、利潤、消費、投資、所得 3. 総需要曲線と総供給曲線、雇用と国民所得 4. 国内均衡と国際均衡 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 効用関数と貯蓄 6. 投資財市場の均衡 7. 貨幣市場の均衡 8. 外国為替市場の均衡 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、試験、レポート</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>三邊信夫(著)『経済原論』(大阪市立大学経済学会)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	0 1	通 期	4 単位	伊代田 光 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。 経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。 もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながら進めていくつもりである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>序論 1～4章 1 経済学とは何か 2 経済学の体系と接近法 3 経済学の系譜 4 経済秩序の基本的特徴</p> <p>本論 1～8章(各章2～3回) 1 国民所得の概念 2 国民所得の決定とその応用 3 貨幣分析 4 国民所得の変動と総需要管理政策 5 物価変動 6 所得分配 7 国際貿易 8 マクロ経済学の展開</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>サムエルソン(著)『経済学(上)』(岩波書店)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝(共著)『新版現代経済学の基礎(改訂増補)』(法律文化社)(平成10年4月をめどに改訂を行う)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I A-2 (マクロ経済学)	02	通期	4 単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学のマクロ経済学を講義します。 まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思います。 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思っています。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れていくはずです。 なお、ごく基本的な内容を講義しますので特に教科書は指定しません。市販の教科書はむずかしすぎるかと思えます。必要に応じて、参考文献等を参考にしてください。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランス—日米貿易摩擦と貯蓄— 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、諸問題 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式(命題に対する解説)をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。 			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 IA-2 (マクロ経済学)	03	通期	4単位	矢根 真二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学基礎理論A (Bのマルクス経済学ではない) で学習した現代経済学の基本であるマクロ経済学とミクロ経済学のうち、GNPや失業率およびインフレなどの一国全体の経済を分析するマクロ経済学について、さらに詳しく学習する。ミクロ経済学と同様、マクロ経済学で学習する内容は標準化しており、世界的に共通している。事実、日本だけでなく欧米の新聞・雑誌の経済記事や白書などを理解するのに必要不可欠な知識である。また、その基本的な概念や数値分析は、公務員試験等の各種試験に出題されることも多い。</p> <p>そこで講義の主目標は、景気や金融・財政政策に関わる専門科目を履修するのに必要不可欠な基礎知識を提供することである。具体的な学習レベルは、第II種公務員試験の基本概念と数値分析の双方を解けるようになると共に、新聞・雑誌の基本的な景気関連記事を理解できるようになることである。実際、テスト内容はこうした問題・類型に基づく標準的なものだから、単位取得のためにはテキストに掲載されている例題や問題を自分で解くことが重要になる。</p> <p>また、基礎理論Aとの重複をミニマムにするためにも、45度線分析等のマクロ経済学の入門部分は簡単に復習するだけなので、この種の予備知識のない受講者は両テキストの1・2章を、特に数式や記号アレルギーが強い場合には下記参考文献ドウリングの1・2章をあらかじめ学習しておく必要がある。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>Part I マクロ経済学とは？：経済学基礎理論Aのレビュー</p> <p>(1)現代経済学の考え方：インセンティブとモデル</p> <p>(2)ミクロ経済学の基礎：市場のメカニクス（需要・供給と均衡）</p> <p>(3)経済学の分析道具：モデルの基本（関数、連立方程式の解とグラフ）</p> <p>(4)マクロ経済学の分析対象：国民所得統計（三面等価と物価）</p> <p>(5)マクロ経済学の基礎：GNPのメカニクス（45度線分析と乗数）</p> <p>Part II IS-LM分析と金融財政政策：固定価格モデル</p> <p>(1)一般均衡分析と5つの市場：相互依存の世界（ワルラス法則）</p> <p>(2)生産関数と労働市場：政策の必要性（完全雇用と非自発的失業）</p> <p>(3)投資関数とIS曲線：投資の限界効率（生産物市場の均衡）</p> <p>(4)貨幣市場とLM曲線：マネーサプライと投機（貨幣市場の均衡）</p> <p>(5)均衡国民所得と利子率：各種の乗数と資産効果（金融財政政策の有効性）</p> <p>Part III 現代マクロ経済学のトピックス</p> <p>(1)物価と失業：予想（AD-ASモデルとフィリップス曲線）</p> <p>(2)国際マクロ経済学：為替レートと貿易収支（マンデルフレミングモデル）</p> <p>(3)経済成長と景気変動：技術進歩（新古典派モデルと内生的成長論）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期後期の試験の合計点が6割以上を合格とする予定。試験後に解答例とスコアを各自に提示し、クレームを受け付ける期間を設ける予定。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義の数値分析で使われる数学は、中学校で学習した「2本の直線の交点を求める」という簡単な連立方程式の解とグラフに関する知識だけである。それでも、記号や数式アレルギーが強かったり、基礎理論Aでの予備知識がなくて不安な場合には、図書館等で下記の第1・2章の該当部分を学習すれば十分である。本講義のPart IIまでの内容に相当する問題をすべて解答付きで親切に解説している上、全部合わせても30頁程とコンパクトなので、非常に有益である。</p> <p>・ドウリング『例題で学ぶ：入門・経済数学 [上]』マグローヒル 現実の日米経済との関連を含めた詳しい議論を知りたい場合には、 ・マンキュー『マクロ経済学』東洋経済 が読みやすい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>・辻正次・他『演習マクロ経済学』日本評論社 ・大塚総研『当確公務員 速攻チェック&トライ 12：経済原論II マクロ経済学』大塚出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I B	01	通期	4単位	滝田 和夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>マルクスの経済学について講義する。ここでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておくことで講義が理解し易いであろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <p>I. 経済学の対象と方法</p> <p>II. 市場経済</p> <p>1. 商品経済</p> <p>2. 貨幣経済</p> <p>III. 資本とその増殖</p> <p>1. 貨幣の資本への転化</p> <p>2. 絶対的剰余価値の生産</p> <p>3. 相対的剰余価値の生産</p> <p><後期></p> <p>IV. 価格と利潤</p> <p>V. 資本の再生産と蓄積</p> <p>1. 資本の蓄積過程</p> <p>2. 社会的総資本の再生産過程</p> <p>3. 利潤率の傾向的低下法則</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年2回行なう試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>置塩信雄（著）『マルクス経済学』 筑摩書房 森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』 東洋経済新報社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>平井・北川・滝田（共著）『経済原論』 有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論 I B	0 2	通 期	4 単位	松尾 純
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊とその後の社会変革は何を意味するのか。中国共産党が推進している「市場社会主義」とは何か。そもそも社会主義とは何か。マルクスの考えていた社会主義とはどのような社会システムであるのか。またそれは、われわれが現在生活している資本主義社会システムとどのように異なっているのか。ソ連・東欧の「社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義もその行方は不透明である。これら一連の問題を考えるまえに、いま改めて資本主義社会とは何かということが問われなければならない。本講義では、このような問題意識に立って、マルクス経済学の「再構築」を目指す。したがって、これまで教科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていくことにしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 唯物史観とは何か。 2. 労働疎外論とは何か。 3. 『共産党宣言』には何が書かれているか。 4. マルクスの社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」</p> <p>(後期) 1. 経済学の対象と方法。 2. 商品とは何か。 3. 貨幣とは何か (本質と諸機能) 4. 資本とは何か。 5. 資本の生産過程 6. 資本の蓄積と再生産 7. 過剰人口論と資本過剰論</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績の評価は年度末に行う試験結果による。出席率は一切考慮しない。出題形式は、今現在、語句説明5～6問と選択式論述式問題1問である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考書は授業時間中に適宜お知らせします。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義概要の趣旨から分かるように、教科書は使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論II		通 期	4 単位	伊代田 光 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>次の2つの問題に焦点をあてて講義を進める。 近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の3つの側面から総合的に明らかにする。 1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。 必要に応じて基礎的な理論の説明も行うが、受講は二回生以上が望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I 所得分配 (理論、実態および政策)</p> <p>1 はじめに 4 人的分配の分析概念 (2回) 2 所得分配の基礎理論 (4回) 5 所得・資産分配の実態 (3回) 3 所得分配率 6 分配に関する政策の現状と問題点</p> <p>II マクロ経済学の潮流</p> <p>1 ケインズ経済学 (4回) 国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策 2 反ケインズ派経済学 (4回) フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学 3 新ケインズ派理論 (2回) 4 新古典派リアル・ビジネスサイクル理論 (2回) 5 おわりに (マクロ経済学の展望)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として年度末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>稲別正晴・伊代田光彦・植田政孝 (共著) 『新版現代経済学の基礎 (改訂増補)』 (法律文化社) (平成10年4月をめどに改訂中である)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史Ⅰ (旧経済学史)		通 期	4 単位	熊谷 次郎
<p>[講義概要・学習目標] 経済的な営みは人類の歴史そのものといってもよいだろう。そして多少とも自覚的な経済分析も古代のギリシャや中国で始められていた。しかし、近代的な経済思考(経済活動にはそれ固有の法則性があるという認識)は、16世紀から17世紀にかけての地理上の発見、商業革命、資本主義「世界システム」の形成、国民国家の抬頭、科学革命などを背景に形成されてきた。 この講義では、まずこうした歴史的背景のなか、近世から近代にかけて、諸国家が共通して採用した重商主義政策の思想と理論について説明する。重商主義時代は、経済学の「星雲時代」とも言われており、その混沌のなかに経済学の面白さがあることがわかってもらえれば、講義の前半は成功と考えている。ついで重商主義を批判して登場した、アダム・スミスにはじまる古典派経済学を上記と同じ視点のもとで取り上げる。</p>		<p>[講義計画] <前期> 重商主義の経済学を、外国貿易、国内市場、インダストリー、奢侈、価値、貨幣、利子、国家と経済との関係、などに関連させて講義する。 <後期> アダム・スミス、リカード、マルサス、ジョン・スチュアート・ミルなどの古典派経済学者、ならびにそれを批判的に摂取したマルクスについて講義する。</p>		
<p>[成績評価の方法] 期末試験の成績をもってする。時折出欠をとる。</p>		<p>[参考文献] *小林昇『経済学の形成時代』未来社(『小林昇経済学史著作集』に未来社収録) *内田義彦『経済学の生誕』未来社(『内田義彦著作集』、岩波書店所収) *フィリス・ディーン著/中谷俊博・家本博一・橋本昭一訳『経済認識の歩み』名古屋大学出版会</p>		
<p>[教科書] 田中敏弘編著『経済学史』八千代出版、1997年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史Ⅱ (旧経済学特講-経済学史Ⅱ)		通 期	4 単位	服部容教
<p>[講義概要・学習目標] 近代経済学の誕生、それ以降、現在に至る発展を見ることは現代の経済を分析するために必要な一つの方法であると考えられる。このような観点から、「限界革命」以降、現代の経済学の基本的な理論が形成されてきた状況とそれらの内容を紹介したい。 このような広範囲にわたる経済学の歴史に一つの概観を得ることを目的としているが、出来るだけこれらの初期の経済学については、原典にあたってもらうように努める予定である。出来るだけ多くの文献を参考にしながら、現在の経済学に接近することができるようにしたい。 なお、受講者は、初歩的なミクロ経済学、マクロ経済学の知識を持っていることが望ましいので、これらの科目を履修しておくか、あるいは平行して履修してもらいたい。</p>		<p>[講義計画] 1 限界革命の意義 2 限界主義理論の成立 イギリス オーストリア学派 アメリカ 3 フルラスと一般均衡理論 4 ケンブリッジ学派 5 ケインズ経済学 6 現代経済学の潮流</p>		
<p>[成績評価の方法] 出席、レポートも重視するが、最終的には学年末の試験による。なお、受講者数が少ない場合は数回のレポートを提出し、これをもって評価を行なう。</p>		<p>[参考文献] 講義中に適宜指示する。</p>		
<p>[教科書] 使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済成長論（旧経済変動論）		前期集中	4 単位	西川 憲二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。その結果、現在では、各国が世界的な経済競争にさらされるようになった。この講義では、西欧の経済発展の歴史をふりかえるとともに、経済成長の理論と、成長の原動力である技術革新の重要性を論じていく。</p>			<p>[講義計画]</p> <p>近代西欧とアメリカの経済発展 経済成長理論 日本の高度成長 技術進歩の経済学</p>	
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、年度末試験。</p>				<p>[参考文献]</p> <p>なし。</p>
<p>[教科書]</p> <p>なし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計量経済学		後期集中	4 単位	荒 木 英 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭の中にある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。</p> <p>経済モデルを構成し、経済の動きをシミュレートしてみることは、経済変数間の関係を整合的に理解する上で有益です。本年度は、前期分では推計手法、後期分では経済モデルの構成に焦点をあてて、簡単なマクロ経済モデルのシミュレーションを学びます。</p>				<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉 1. 相関と回帰、最小二乗法、決定係数 2. 推定・検定の基本的な考え方 3. 回帰分析における検定</p> <p>〈後期〉 4. 経済データの特質 5. 要因分解・弾力性の推計 6. 消費関数、投資関数の推計 7. 計量経済モデルとシミュレーション</p>
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かの小テストと期末試験。</p>				<p>[参考文献]</p> <p>適宜指定する。</p>
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国民経済計算論 (旧産業連関論)		通 期	4 単位	桂 昭 政
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>国民経済計算の知識は、マクロ経済学の知識のみならず、経済の動き、とくに日本経済の動きと理解可能な点も不可欠といえる。本講義では国民経済計算のフロー・ストック・ストック・ストックのSNAの知識のみならず、SNAを用いて日本経済の動向を明らかにして理解していただくことを目的としている。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>1. SNAと日本の経済循環 — 生産、分配、蓄積の側面を中心に—</p> <p>2. SNAと日本の経済循環 — ストック(資産)の側面を中心に—</p> <p>さらに時間的余裕があれば</p> <p>3. サテライト勘定について述べられる。</p> <p>なお、可能な限り理解と読み取りに役立つパワポと現物の資料を準備して授業に活用したいと考えている。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>成績評価は年度末に行う試験結果を主とし、それにレポートを加味して決定する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤岡文七・渡辺源次郎『テキスト国民経済計算』(大蔵省印刷局) ・ 桂 昭政『福祉の国民経済計算—方法とSNA』(法政文化社) 			
<p>〔教科書〕</p> <p>石住邦一郎『入門SNA—国民経済計算を語る日本経済』(日本評論社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済史	0 1	通 期	4 単位	梅 本 哲 世
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つめ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。</p> <p>歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済史の基本概念 2. 幕末の経済と開港 3. 明治維新 4. 殖産興業と松方財政 5. 近代産業の発達—軽工業 6. 近代産業の発達—重工業 <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日清・日露戦争と日本経済 2. 第1次世界大戦と日本経済 3. 1920年代 4. 昭和恐慌 5. 高橋財政 6. 戦時経済 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>学年末試験の結果により評価する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>石井寛治著『日本経済史(第2版)』(東京大学出版会) 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』(東京大学出版会)</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>三輪良一著『概説日本経済史 近現代』(東京大学出版会)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済史	02	通 期	4 単位	山 田 雄 久
[講義概要・学習目標] 徳川～明治期の日本経済について、最近の数量経済史による研究成果に基づきながら概観する。とくに民間経済が政府の育成策をどのように受け止めて来たのか、そして市場経済の発達を可能にした民間の経済組織がいかなる形で組み上がって来たのかについて考察を行いたい。	[講義計画] 1 徳川期の財政金融政策 2 徳川期の市場経済組織 3 徳川期の人口・物価史 4 明治期の財政金融政策 5 明治期の近代産業と輸入代替 6 明治期の在来産業と海外輸出			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績によって評価する。	[参考文献] 西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済、1985年 新保博『近代日本経済史』創文社、1995年 作道洋太郎ほか『日本経済史』学文社、1979年			
[教科書] 特になし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋経済史		通 期	4 単位	前 田 治 郎
[講義概要・学習目標] 18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的發展を考えたい。	[講義計画] 1. イギリス産業革命と各国の対応 2. イギリス資本主義の再編成 3. パクス・ブリタニカの生成と発展 4. 大不況期と独占資本主義			
[成績評価の方法] 後期試験と授業中に数回行う小テスト	[参考文献] 藤瀬浩司 (著) 『資本主義世界の成立』(ミネルヴァ書房) 加勢田 博 (編) 『概説西洋経済史』(昭和堂) シドニー・ポラード (著) 『ヨーロッパの選択』(有斐閣選書)			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 済 政 策		通 期	4 単位	津 田 直 則
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済政策論は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野である。目標と手段の関係は抽象的レベルで分析することもあれば具体的レベルで分析することもある。また、制度や経済体制などの質的問題を議論することもあれば、国民所得や消費などを数量的に扱うこともある。これらを全般的に扱い、経済政策論の体系を学習する。</p> <p>経済政策論は市場メカニズムの働きに任せることができない分野を政策活動で補うという形をとっているために、市場メカニズムとは何かということが分からないと経済政策論はなぜ必要なのかが分からない。市場メカニズムとは何かというのは経済理論の分野の問題であるから、経済原論 A を履修していることが望ましい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済政策論の対象と課題 2. 経済政策論の思想的課題 3. 経済政策の目的と手段 4. 経済政策の形成過程 5. 経済政策論のためのマイクロ理論 6. 政策形成主体の行動理論 7. 経済政策論のためのマクロ理論 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 解放経済下の経済政策 9. マクロ計量経済モデル 10. 財政政策 11. 金融政策 12. 産業政策 13. 資源環境政策 14. 経済の国際化と経済政策 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期のテスト</p>		<p>[参考文献]</p> <p>津田直則、長屋泰昭、田中康秀編『現代経済体制と経済政策』見洋書房</p>		
<p>[教科書]</p> <p>丸谷冷史、家森信善編『経済政策講義』中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界経済事情		通 期	4 単位	モグベル・ザファール
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日の世界経済では「対岸の火事」と悠長(ゆつろ)なことは言っていない。すべてが同時進行で展開し、ボータレスに迫って来る。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がぼやけて行く中で世界の経済事情に関するよりの確な情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立つてこの講義では世界経済に関連したトピックスを取り上げて分かりやすく解説する。受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの解釈とオピニオンを持てるようになれば幸いである。主に以下のようなテーマの中からタイムリーなトピックスを抽出して講義する。ただし、「世界経済入門」以降は順不同。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界経済入門 <ul style="list-style-type: none"> - 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠と意味 - 今日の世界経済のルールとその起源 - GATT・WTO と世界貿易 - IMF と国際金融体制 - 国際収支の仕組みと日本の国際収支の最近の動向 2. 開発途上国の実態と戦略 3. NIEs 諸国の実態と戦略 4. アジア通貨危機の真相 5. ODA は世界を貧困から救えるか? 6. 経済摩擦はだれの責任? 7. 地域主義は「妙薬」なのか? EU, NAFTA, APEC を巡って 8. 甦ったアメリカ経済 9. 石油と一次産品: 「超水河期」に向けて 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は原則として年度末に行う試験結果による。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>宮崎 勇 ・ 丸茂 明則 (編) 「世界経済読本」 (東洋経済新報社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代資本主義論		通 期	4 単位	濱 田 博 男
[講義概要・学習目標] 米ソ冷戦体制終焉後、いまだに新しい世界の政治・経済秩序は形成されていない。旧社会主義諸国の混乱、民族・地域紛争の多発などのほか、先進資本主義諸国でもそれぞれに困難な問題をかかえている。世界で唯一高い経済成長をつづけてきた東アジア諸国も97年夏以降、通貨危機・金融危機から厳しい調整の必要に迫られている。日本経済もバブル崩壊後の長期不況につづく深刻な経済危機からの脱却に苦しんでいる。戦後50余年、政治・経済・社会のすべてに大きな構造改革が必要とされている。 大きな地震変動の動きのなかで、21世紀の世界と日本はどのような姿になるのか、考えるべき課題は多い。本講義では日本経済を中心としながら、現代資本主義の抱える諸問題（とくに日米関係、対アジア関係に重点を置く）について考えていきたい。	[講義計画] 講義で取り上げるテーマ（参考例） 1. 冷戦終焉後の世界と日本 2. 日本型資本主義とアメリカ型資本主義 3. バブル崩壊後の日本経済 4. 銀行不良債権と金融システム不安 5. 産業構造の変化と“産業空洞化”問題 6. 日米関係－経済摩擦問題を中心に－ 7. “規制緩和”問題 8. 東アジア経済圏の抱える諸問題と日本の役割 9. 21世紀への課題 その他			
[成績評価の方法] 原則として年度末試験の成績による。 （年度途中でレポートを課すこともある）	[参考文献] レスター・C・サロー（著）／山岡洋一・仁平和夫（訳）『資本主義の未来』（TBSブリタニカ） 日本経済新聞社（編）『ゼミナール・日本経済入門』（日本経済新聞社）			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済論		通 期	4 単位	鈴 木 健
[講義概要・学習目標] 50年前、侵略戦争に敗北した日本はアメリカの単独占領下で政治・経済システムの民主主義的構造転換への歩みを開始した。40年前、日本経済は敗戦後の経済再建を終え、後に第一次高度成長と称される経済発展の軌跡を描き始めていた。30年前、日本経済は前期から引き続く第二次高度成長の真っ只中にあり、“終わりのなき繁栄”の夢に酔いしれていた。20年前、日本経済は労働者への犠牲のしわ寄せによって70年代スタグフレーションからの脱出を試みていた。内外の“評論家”はそれを“日本的経営”の優位性として称揚していた。10年前、日本経済は“バブル経済”の膨張の絶頂期にあって、一億国民の金融資産が限りなく膨らみつつあるかのごときデマゴギーが日本列島を覆い尽くしていた。そして、敗戦後50年余を経た日本経済の現実が目の前にある。『経済白書』（96年版）は「日本的経済システムの行き詰まり」について書いたが、それはすなわち圧倒的多数の勤労国民の犠牲のうえに組み立てられた大企業＝大銀行本位の経済システムの「行き詰まり」を告白したものにほかならない。北海道拓殖銀行の経営破綻、山一証券の“自主廃業”は、「行き詰まり」に直面する日本経済・日本的経済システムの現状を象徴している。 本講義では、戦後50年の日本経済の軌跡を振り返り、今日の経済的破綻を引き起こした「日本的経済システム」の限界について考えることにする。「日本的経済システムの行き詰まり」について種々の議論があるが、その実態を政・官・財癒着の統治システムのもとで貫徹される大企業支配の経済システムの破綻ととらえる議論はあまりにもすくない。本講義において強調するのはこうした見地であるから、受講生が獲得すべき第一義的な目標もまたそこにある。	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、年間講義計画の概要 ・第2回、日本的経済システム① ・第3回、日本的経済システム② ・第4回、日本的経済システム③ ・第5回、バブルの膨張と破綻① ・第6回、バブルの膨張と破綻② ・第7回、バブルの膨張と破綻③ ・第8回、バブルの膨張と破綻④ ・第9回、大競争と規制緩和① ・第10回、大競争と規制緩和② ・第11回、大競争と規制緩和③ ・第12回、大競争と規制緩和④ ・第13回、大競争と規制緩和⑤ ・第14回、占領から復興・再建へ① ・第15回、占領から復興・再建へ② ・第16回、占領から復興・再建へ③ ・第17回、高度成長期の日本経済① ・第18回、高度成長期の日本経済② ・第19回、高度成長期の日本経済③ ・第20回、日本的経済システムの限界① ・第21回、日本的経済システムの限界② ・第22回、日本的経済システムの限界③ ・第23回、日本経済の再建・転換の方向① ・第24回、日本経済の再建・転換の方向② 			
[成績評価の方法] 次の二つの評価の総合による。 ・第一、学年末試験の評価（5～6割配点） ・第二、年間4～5回、抜き打ちで行うレポート提出（5～4割配点）	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・井村喜代子『日本経済論』（有斐閣） ・橘川武郎『日本の企業集団』（有斐閣） ・鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、1993年） ・中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社） ・橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会） 			
[教科書] ・鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ、1998年3月刊行予定）				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生活経済論(旧経済学特講一生活経済論)		通 期	4単位	木 村 二 郎
<p>[講義概要・学習目標] この科目の特色は、生活者の視点から日常生活に密着した生活経済と法律に関する具体的知識の解説を中心に、各分野の専門家が講義を担当する点にある。海外旅行、ファイナンシャル・プラン(貯蓄・株式・保険・年金など)、税金、災害、環境、結婚・離婚にまつわる問題、損害賠償、訴訟、インターネット、アジア経済との関係、家族、物価など、現在あるいは将来の生活に役立つ諸問題を幅広く取り上げていく予定である。 学習目標としては、第1に、身近な生活経済の場における経済と法律の実際を学ぶこと、第2に、日本の生活経済の現状の問題点を認識し、その改善の方向性を自分なりに考え出すことである。</p>	<p>[講義計画] <前期>1. 海外留学・海外研修あれこれ、2. 訴訟に強くなる方法、3. 大阪で身体が不自由になったときにかかる費用、3. 生活と災害:阪神大震災の経験から、4. 婚約の成立要件と婚約破棄による慰謝料、5. 遺言と遺留分をめぐる問題、6. 夢のスーパーハイウェイ:知られざるインターネットの落とし穴、7. 生活の中の年金、8. 生命保険の上手な利用の仕方、9. ファミリーリスクと損害保険、10. 家族新時代への萌し:変わりゆく夫婦関係、11. 生活と物価 <後期>1. 快適・便利・安全な海外旅行、2. ハウマッチ・セレモニー、3. 生活の中の環境問題、4. 消費生活におけるアジアと日本、5. 低金利下の金融商品の選び方、6. 外貨建高金利商品は有利か、7. 個人の貯蓄と証券投資、8. 証券投資の基礎知識、9. 事故と損害賠償、10. 暮らしと税金、11. 規制緩和と物価 ただし、講師の都合により若干の変更はありうる。</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期末試験と学年末試験の総合評価。</p>	<p>[参考文献] 経済企画庁編『国民生活白書』各年版</p>			
<p>[教科書] なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財政学		通 期	4 単位	竹 原 憲 雄
<p>[講義概要・学習目標] いま財政がおもしろい。赤字国債の膨張や財政再建の取り組みを通して、日本の経済社会の実像がみえてくる。また財政は日常のくらしの問題である。消費税でもそれがわかる。しかし、それが関心だけに終わってしまうならば、財政の正体はわからない。財政のしくみや経済活動との関係などについて、体系だった取り組みが必要になる。それをふまえて、日本の財政がかかえる問題、それが国民生活に与える影響、そしてのぞましい財政の姿など日本財政の実体にせまってみようというのが、この講義のねらいである。 財政という窓からもう一度世の中をみつめなおしてもらいたい。</p>	<p>[講義計画] 1. 日本財政の現状-1998年度予算の分析 2. 財政と財政論 3. 予算制度 4. 政府活動と経費構造 5. 租税と租税制度 6. 公債の理論と公債制度 7. 財政投融资のしくみ</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期末レポート、学年末試験</p>	<p>[参考文献] 講義のなかで紹介する。</p>			
<p>[教科書] 和田 八束(著)『財政学要説(改訂新版)』(文真堂)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
金 融 論		通 期	4 単位	木 村 二 郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「金融ビッグバン」「金融恐慌」「金融システム不安」という言葉に代表されるように、私たちを取り巻く経済の中で、改めて金融に関わる出来事が注目されている。この講義は、金融の基本的な内容をまず説明した上で、今日の金融諸現象の意味するところは何かを明らかにする。</p> <p>「お金」「信用」「銀行」「証券」「外国為替」など金融に関わるさまざまな言葉の意味するところは何か。金融は現代の経済においてどのような役割を果たすのか。このような金融に関わる基本的な内容をまず明らかにすることから始めて、次に、今日の日本経済における金融がいかに運営され、どのような制度再編の波にもまれているのかを明確にしていく。そして、私たち生活する者にとって、この金融制度再編の持つ意味は何かを解明する予定である。</p> <p>学習の目標としては、金融の基本的な概念と制度・政策を理解すること、および、新聞などを通じて得られる現状の金融諸現象の内実を理解する能力を身につけることである。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末試験と学年末試験の総合評価。</p>		[参考文献]		島村高嘉『図解金融入門』東洋経済新報社、1996年
<p>[教科書]</p> <p>関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学総論		通 期	4 単位	野 田 知 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的方法がある。この講義では経済学などの社会科学に必要な統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析手法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な手法を学ぶこととする。なお、統計学の習得には体系的な履修が必要となり、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難なことになるという点も注意。</p>		[講義計画]		授業の最初の指示板
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期テスト</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>統計学(新世紀) 森村公彦著</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済数学		通期	4単位	安藤 洋美
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済学に数学が使われたのは、とても古く、特に19世紀の中頃のクールノーによって『富の理論の数学的原理に関する研究』が出版された時をもって発祥とする。経済学の内容の幾つかを、日常言語ではなく簡潔な表現方法として数学を応用すること（言語として使うこと）：経済現象のモデルの分析と法則表現の手段として数学利用することを理解させたい。もっと端的に言えば、経済学とは条件付極値問題を解くことでもあることが理解できれば、この講義の目的は達成される。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期>差分法、差分方程式を使う離散変量の経モデルの分析</p> <p><後期>微分法、微分方程式を使う連続変量経済モデルの分析</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期2回の試験と演習を主体にする講義なので、平常の課題解決力も加味して、評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済統計		通 期	4 単位	桂 昭 政
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されることと事実認識手段として、理論あるいは仮説の検証のための検証手段として今日も利用されている。本講義では日本経済の全体像と把握するうえで、あるいは日本経済の現状と理解するうえで重要な、現代の国民所得統計であるSNA統計を中心に、個別のミクロ統計である産業統計、省別統計、物価統計等の特徴をいかに利用し、中心に講義と対応していくことを加えている。それによって経済統計の役割をわけていけることに日本経済の実際とつながりようにしたいと加えている。また、近年のグローバル化によるデータ処理の発展とつながり加えている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 国民所得統計の概説</p> <p>2. ミクロ統計（産業統計、省別統計（含人口統計）、家計統計、物価統計等）の概説</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は年度末に行う試験結果と主とし、それにレポートを加味して判定する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岩井・原・長永（編著）『情報化社会の統計学』（三浦社）</p> <p>田中尚美（編）『統計資料集（1998）』（産業統計研究社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理論		通 期	4 単位	野 田 知 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>デジタル社会という言葉が広まるように、現代社会で生きていくためには、パソコンに関する知識が必要不可欠である。本講義では、表計算ソフトの使い方を学び、経済データの処理の方法を学ぶことと、情報処理の基礎知識を身につけることを目標とする。</p> <p>授業の進め方として、パソコンの利用とパソコンの操作に合わせた体系的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位取得が困難になることは注意しておく。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>授業の最初から指し示す。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	01	通 期	4 単位	濱 田 寅 彦
	02	通 期	4 単位	
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学部の専門科目に対応したコンピュータ実習を行うことで、それらの科目をより身近に感じてもらうというのがこの科目の狙いです。しかし、経済学の例題を素材にしてコンピュータ操作に関する知識を深めてもらうという意図もあります。本年度は、前期を基本操作の習得にあて、後期には経済理論や実証分析の中からいくつかのテーマを選んで、データ処理の実際を学んでいくこととします。</p>		<p>[演習計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータに関する基礎知識 Windowsの操作方法 2. タッチタイピングとワープロ 3. 電子メールとWWWブラウザ 4. 表計算ソフトの基本操作 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ホームページの作成 6. マクロ経済・ミクロ経済の統計データベース検索 7. 表計算ソフトとVBAを用いたデータ処理 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・課題提出・試験を考慮する</p>		<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する</p>		
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>この科目のWebページ(ホームページ)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
計算機演習	03	通 期	4単位	吉 川 真 裕
	04	通 期	4単位	
[演習概要・学習目標] 経済学部の特設科目に対応したコンピュータ実習を行うことで、それらの科目をより身近に感じてもらうというのがこの科目の狙いです。しかし、経済学の例題を素材にしてコンピュータ操作に関する知識を深めてもらうという意図もあります。本年度は、前期を基本操作の習得にあて、後期には経済理論や実証分析の中からいくつかのテーマを選んで、データ処理の実際を学んでいくこととします。	[演習計画] 前期 <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータに関する基礎知識, Windows の操作方法 2. タッチタイピングとワープロ 3. 電子メールとWWWブラウザ 4. 表計算ソフトの基本操作 後期 <ol style="list-style-type: none"> 5. ホームページの作成 6. マクロ経済・ミクロ経済の統計データベース検索 7. 表計算ソフトとVBAを用いたデータ処理 			
[成績評価の方法] 出席点・平常授業時の課題提出・試験で決める	[参考文献] 適宜指示する			
[教科書] プリントを配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（計算機演習）	01	通 期	4単位	村 松 郁 夫
	02	通 期	4単位	
[講義概要・学習目標] 本講義は、パーソナルコンピュータを利用した実習形式で授業を進める。講義の目的は、様々なミクロおよびマクロ経済データを実際に「処理」するを通して、経済学で扱われる問題やその分析手法などについての知識を深めることにある。 データの処理には、①必要なデータを検索し、抽出する、②抽出されたデータを加工し、分析する、③分析結果を整理し、伝達する等の手順が含まれる。本講義では、データの検索・抽出に関しては、企業財務データやNEEDSのマクロ経済データなどのデータベースを適宜利用する。データの加工・分析、分析結果の整理・伝達に関しては、表計算ソフトやワードプロセッサを組合せて用いる。 なお、データの保存用として、3.5インチ2HDのフロッピー・ディスクを2、3枚、持参すること。 96～98E生については、経済学基礎科目「計算機演習」を既に修得済の者および本年度開講の同科目と同時に履修することができないので注意すること。	[講義計画] <前期> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータに関する基礎知識, Windowsの操作方法, ファイルやフォルダの取り扱いなど 2. インターネットの利用方法 (電子メール, WWW, ホームページの作成方法など) 3. ワードプロセッサの操作方法 <後期> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データベースの利用方法 2. 表計算ソフトの操作方法 3. 統計的処理の方法 4. VBAを用いた経済分析 			
[成績評価の方法] 講義の最初に実習内容についての説明を行い、残りの時間に各自実習する形式で授業を進める。講義終了時に、毎回、実習結果をレポートとして提出してもらい、その内容で成績を評価する。	[参考文献] コンピュータに関する参考書は、最新のものを利用することが望ましいので、適宜、紹介する。なお、自分が現在利用している参考書で代替してもらってもよい。			
[教科書] 堀本三郎, 平本健太, 村松郁夫著『テキストブック 情報リテラシー』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	01	通 期	4単位	近 藤 健 司
	02	通 期	4単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成とする財務諸表を通じて、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などに必要な会計情報を伝達する。</p> <p>本講義では、初め簿記を学習する学生を対象として初級の商業簿記を講義する。学習内容は、複式簿記の計算原理・計算構造の理解、仕訳の習熟、財務諸表の計算練習、帳簿の合理的な付け方の4点である。</p> <p>授業に当っては、簿記の基本的な仕組みの理解と計算技術の習得という理論と計算の両面にわたる故に、毎時周、説明とともに、練習問題を多数課し、つづいて実践的に行いたい。積み重ねが必要科目であるため、極力休まないよう努力してほしい。</p>		<p>〈前期〉Ⅰ 複式簿記の計算原理 (資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の概念)</p> <p>Ⅱ 複式簿記の計算構造 (取引・勘定・仕訳、仕訳帳・元帳、試算表・決算Ⅰ)</p> <p>Ⅲ 勘定科目各論 (現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金)</p> <p>〈後期〉Ⅳ 勘定科目各論 (受取手形・支払手形、その他の勘定科目)</p> <p>Ⅴ 決算Ⅱ (決算整理、8桁繰上表、財務諸表〔損益計算書、貸借対照表〕)</p> <p>Ⅵ 帳簿組織 (伝票会計制度——三伝票制、五伝票制)</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>前後期各1回の筆記試験の成績に、課題の提出、出席状況を加味して総合評価する。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定試験3級に合格した者には、別途加点評価する。</p>		<p>新井清光(監修)『日商簿記検定新ワーク・ブック3級』(税務経理協会)</p>		
[教科書]				
<p>中田信正・徐龍運・堀友章・全在教(共著)『現代簿記論』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法概論		前期集中	4単位	林 錫 璋
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>ある程度の法学的素養というか民法の知識を必要とすると思われる学生のために、民法の全五編について概説する。</p> <p>講義は、民法の最少必要限の知識を、重点項目において講述し、民法全般について理解ができるように努めたい。</p>		<p>1, 民法の基本原則</p> <p>2, 権利能力と行為能力</p> <p>3, 法人の意義及び種類</p> <p>4, 法律行為の意義及び性質</p> <p>5, 有権代理と無権代理</p> <p>6, 無効と取消</p> <p>7, 時効制度</p> <p>8, 物権の意義及び客体</p> <p>9, 公示の原則と公信の原則</p> <p>10, 占有権・所有権その他の物権</p> <p>11, 法定担保と約定担保</p> <p>12, 債権の発生原因</p> <p>13, 連帯債務と保証債務</p> <p>14, 債権者代位権と債権者取消権</p> <p>15, 契約の成立と効力</p> <p>16, 不法行為と特殊不法行為</p> <p>17, 親族の種類及び範囲</p> <p>18, 婚約と婚姻</p> <p>19, 協議離婚と判決離婚</p> <p>20, 認知</p> <p>21, 養子と特別養子</p> <p>22, 相続人と相続分</p> <p>23, 遺言の意義及び方式</p> <p>24, 遺留分</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
<p>年度末試験を重視し、レポート・出席状況を加味して総合評価する。</p>		<p>谷口知平・甲斐道太郎(編)『新版 現代民法入門』(法律文化社)</p>		
[教科書]				
<p>山本正憲著『概説 民法(改訂版)』(法律文化社)</p> <p>塩野 宏ほか(編)『ポケット 六法』(有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法概論		通 期	4単位	吉 見 研 次
[講義概要・学習目標] この講義では、商法全般の基礎的な知識を講述する。商法の分野ごとの詳細な内容については、別に「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」が開講されている。したがって、本講義では商法全体の基本的なしくみを、なるべくわかりやすく説明するように努力したい。ただ時間の制約上、商法のうち主に株式会社法と手形・小切手法を取り上げる。 なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。	[講義計画] Ⅰ 商法の概観 Ⅱ 会社法 (1)会社の種類 (2)株式会社 ①設立 ②法人成り ③株主 ④株式譲渡 ⑤株主総会 ⑥総会決議 ⑦取締役 ⑧取締役の責任 ⑨監査役 ⑩新株発行と社債 ⑪計算 Ⅲ 手形・小切手法 (1)約束手形 ①振出 ②振出時のトラブル ③裏書 ④善意者保護 ⑤流通時のトラブル ⑥支払・不渡等 (2)為替手形 (3)小切手 ①振出等 ②線引小切手 Ⅳ 商法総則・商行為法 ①総則 ②商行為法			
[成績評価の方法] 正誤文選択等の短答式の学年末テストを予定している。	[参考文献] 芦部信喜他編『コンパクト六法1998年版』（岩波書店） 田村諒之輔他編『目で見える商法教材』（有斐閣） その他、授業時間中に適宜紹介する。			
[教科書] 岩崎 稜他『セミナー商法』（日本評論社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法		通 期	4単位	前 田 徹 生
[講義概要・学習目標] 「憲法」については、中学や高校で既に習ったという方が多いはずである。そこで習う憲法は、多くの場合制度の説明にとどまっている。大学の講義での憲法は、制度の枠組みの解説ではなく、その制度の由来や沿革、その趣旨や目的および機能、それに関する諸説の比較検討、対立する諸利益や価値との比較衡量により、一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。 憲法も次第に専門化や細分化がなされ、今日憲法の全領域を一年間で講義をすることは難しくなっている。そうした理由から、本年度は特に総論、基本的人権と、時間が許せば違憲審査制を取り上げることとした。	[講義計画] ① 憲法ガイダンス・憲法規範の特徴 ⑩ 思想・良心の自由 ② 日本国憲法成立史 ⑪ 学問の自由 ③ 第九条の起源 ⑫ 信教の自由・政教分離の原則 ④ 第九条と日米安保条約 ⑬ 表現の自由 ⑤ 基本的人権の享有主体 ⑭ 職業選択の自由 ⑦ 基本的人権の私人間効力 ⑮ 被疑者・被告人の権利 ⑧ 個人の尊重と幸福追求権 ⑯ 生存権 ⑨ 法の下での平等 ⑰ 裁判制度 ⑱ 違憲審査制			
[成績評価の方法] 試験の成績を重視するが、出席状況や受講態度を考慮しながら、適宜それらを加味して評価する場合もある。	[参考文献] 佐藤 功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房 樋口陽一『憲法入門』勁草書房 芦部信喜『憲法』岩波書店 佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院			
[教科書] 粕谷友介・向井久了編『憲法』青林書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学入門 (編入生用)		通 期	4 単位	蒔 谷 硯 児
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人類の経済発展が頂点に達した20世紀末において、日本はバブル崩壊後の大不況、地球規模での環境汚染や温暖化、途上国の人口増大と資源枯渇化、貧富の差や社会的格差の拡大など、深刻な問題が山積みし、経済学の有効性が問われている。故に経済理論や経済政策の根拠にある経済思想(価値観)をもつ(む)の歴史を学ぶことは、21世紀の新しい経済学の可能性を探ることも同様である。具体的には古典派経済学からケインズ経済学に至る経済思想を学び、さらに独占と競争の経済学および論争の中の現代経済学への軌跡を辿ることで、現代の経済思想の核心も考えこみる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は主として重商主義時代から古典派経済学を講義し、別派として20年代以降のアメリカ経済学、ヨーロッパ経済思想としての社会主義経済学についても学ぶ。</p> <p>後期は限界費用学派の貨幣的経済理論とケインズ経済学の学習を行う。最後に現代経済思想の破綻を行う。</p> <p>テキストの他に随時他の文献紹介も行う予定。 一時的講義が中心で、受講者の質問と議論を促すことで必ず学習して頂くこと。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況および学年末テストの結果に基づき評価する。リポート提出とテストの結果も参考として総合的に判定する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>八木 紀一郎 著 『経済学入門シリーズ・経済思想』 日経文庫、1999年(6刷)。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
労働経済論		通 期	4 単位	小 川 登
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>皆さんは、卒業後、労働力商品(生涯賃金は約3億円)を売りつけ、それで生活する賃金労働者になる。3億円もする商品を、品質向上・努力なしで売ろうというのは無理なこと。</p> <p>前期は小川本で、就職差別、反差別の経済学、労働組合の必要性等々を講義したい。本の中味の多くは、アメリカ合衆国の労働運動理論である。</p> <p>後期は小池本で、名著の小池和男『仕事の経済学』で、労働経済学全般、とくに熟練の形成について勉強していく。</p> <p>ほかの商品(たとえば服)には心はないが、労働力商品は「生きた赤いハートをもった商品」である。この商品の特殊性を理解してくれば、学習目標は達成できるのではないか。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 小川 登『労働組合の思想』を中心に講義する。</p> <p>(後期) 小池和男教授の名著『仕事の経済学』を中心に講義する。キイとなる概念は知的熟練と長期の競争である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験。ただ、下記の2冊の教科書は必ず買うこと。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>小川 登(著)「労働経済論の基本問題」(ミネルウア書房) 隅谷三喜男(著)「労働経済論」(筑摩書房) 島田晴雄(著)「労働経済論」(岩波書店)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>小川 登(著)「労働組合の思想」(日本評論社) 小池和男(著)「仕事の経済学」(東洋経済新報社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地方財政論		通 期	4 単位	藤 岡 純 一
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>スウェーデンと日本の地方自治・地方財政を比較することによって、日本のこれからのあるべき地方自治・財政の姿を探る。</p> <p>スウェーデンの地方自治体はいかなる役割を果たしているであろうか？ その支出のほとんどが住民に対する福祉と社会サービスに充てられている。では、住民はどの程度の負担をしているであろうか？ 地方所得税の税率は各自治体で決められる。平均して税率は31%である。この税率は高いであろうか？ スウェーデンの国民は、自分たちに社会サービスとして税が戻ってくるので、必ずしも高いとは思っていない。日本ではどうだろうか？ 日本の国民は、税金は取られるものと思っている。福祉や社会サービスとして戻ってきていない。では、日本ではどのように使われているか？ 外国と比較して多いのは、公共事業費である。公共事業に問題があるか？ 今、多くの批判をあびている。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <p>日本と比較しながらスウェーデンの地方財政について講義する。最後に、日本の地方財政の構造についてまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> スウェーデンの地方財政の使われ方 (1)児童福祉、(2)教育、(3)高齢者福祉、(4)保健・医療、(5)都市計画・住宅・環境。 スウェーデンの国と地方との関係 (1)行政、(2)財政、(3)地方分権 スウェーデンの税制・社会保険 所得税、法人税、消費税、社会保険負担 日本の地方財政の構造 歳出、歳入、国と地方、都市と農村 		
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>前期・後期の試験を基本とする。</p>		<p>〔参考文献〕</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>藤岡純一編著『スウェーデンの生活者社会——地方自治と生活の権利——』 青木書店</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済開発論		通 期	4 単位	望 月 和 彦
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>テーマ：「悔い改めよ。終末は近い」 現代の洗礼者ヨハネたちに対する「豊饒の角」派からの反論</p> <p>シェークスピアの翻訳家で劇作家の福田恆存は、知識についてこう書いています。「元来、知識とは事理を洞察する能力、或は「名僧知識」の場合の様にさういふ能力を持った人物の意味であつて、決して知識内容そのものを意味する言葉ではありません。「あの人は知識がある」といふ時、それは色々な事を知つてゐるといふ意味ではなく、その知つてゐる知識内容を判断選択する能力を有するといふ意味なのです。」(福田恆存 「知識人とは何か」)</p> <p>つまり本当の知識とは情報量のことだけではなく、その情報を活用することのできる能力なのです。私が皆さんにお話する目的は、この「本来の知識」の習得にあります。</p> <p>そのための教材として、本講では、経済成長・経済発展に伴って今日の世界経済が直面している問題を扱います。本講で扱う問題とは、環境、資源、人口、開発政策です。</p> <p>資源・環境問題と人口問題は、ともに経済開発によって引き起こされたグローバルな問題であり、人類の直面する重要課題ですが、本講では、この問題に対する二つの対立する主張を取り上げて論じるつもりです。二つの立場とは、一つは終末論的(doomsdayers)見方であり、もう一つは、豊饒の角派(cornucopian)と呼ばれる楽観的な見方です。開発政策では、今日の状況における開発途上国の経済発展の方策を政治・経済など多面的な方向から考えます。</p> <p>受講者は、ミクロ経済学・マクロ経済学の知識を持つことが望ましいですが、もちろんそれらの予備知識がなくとも、受講には差し支えありません。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <p>【前期】</p> <p>第一部 経済発展の歴史的意義 第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？ 第2章 進歩思想vs終末思想 第3章 現代の終末思想としての環境問題 第二部 環境問題と成長の限界 第1章 今日の環境問題とその批判 第2章 産業革命の秘密 第3章 成長の限界 第4章 doomsdayers vs cornucopian 成長の限界に対する批判</p> <p>【後期】</p> <p>第三部 人口と経済発展 第1章 人口の歴史的動態 第2章 今日の人口問題 第3章 人口成長と経済発展 第5章 人口爆発をめぐる議論 第四部 開発政策 第1章 開発の目的と貧困問題 第2章 発展のための条件 第3章 開発政策</p>		
<p>〔成績評価の方法〕 期末試験の成績のみによって評価する。</p>		<p>〔参考文献〕</p> <p>最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。</p>		
<p>〔教科書〕 使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
公共経済論		通 期	4 単位	竹 歳 一 紀
[講義概要・学習目標] 公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、単純な価格メカニズムだけでは解決できない諸問題を経済理論により分析することである。また、そのような問題については政府の介入が必要となるため、適切な政策のあり方について示すことが重要な課題となる。この講義では、①公共財と公共投資、②外部性と環境問題、③所得分配と社会保障、④産業の公的規制といったテーマをとりあげる予定である。 公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論 I A-1 を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。	[講義計画] 前期 1. 公共経済学とは 2. 厚生経済学の基礎 3. 公共財と公共投資 後期 4. 外部性と環境問題 5. 所得分配と社会保障 6. 産業の公的規制			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績による		[参考文献] 講義中に指示する		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境経済論		通 期	4 単位	宇 山 満
[講義概要・学習目標] 環境問題が意識されるようになるのは、良好な環境が相対的に稀少な資源と見なされるようになった時である。こうした相対的稀少資源にかかわる利害対立の問題を効率的に解決するには、市場を意識した経済学的視点が不可欠である。 環境・アメニティといったものは、市場が存在せず、市場価格が存在しないことが多い。そして、これらは、人々に与える便益の性質が「排他性」や「競合性」に欠け、市場メカニズムを通じて効率的な配分を自律的に達成することが難しい財である。こうした資源に関しては、市場への公的介入により資源配分の社会的効率化をはかることを考える必要がある。 本講義においては、こうした公共経済学の具体的応用分野として環境経済学を位置づける。そして、環境の価値の評価・推計方法の基本的考え方を示すとともに、環境問題解決に向けての政策手段の整理・検討とその相互比較等を行うことにしている。	[講義計画] (前期) ・環境問題と環境経済学 ・需要と供給の世界－価格シグナルと市場－ ・公共経済学の基礎概念－経済余剰とパレート最適概念－ ・市場の失敗と政府の役割 (後期) ・公共財と準公共財－非排他性・非競合性－ ・外部性の内部化方策 ・環境政策の目標・手段・効果の比較 ・費用・便益分析とシャドウプライス ・環境価値の経済評価方法 －CVM, ヘドニック法, トラベルコスト法etc－			
[成績評価の方法] 学年末試験の成績による。		[参考文献] 植田和弘(著)『環境経済学』(岩波書店) 森俊介(著)『地球環境と資源問題』(岩波書店) 赤尾健一(著)『地球環境と環境経済学』(成文堂) P.-0.ヨハンソン(著)『環境評価の経済学』(多賀出版) 嘉田・浅野・新保(著)『農林業の外部経済効果と環境農業政策』(多賀出版)		
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中小企業論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
[講義概要・学習目標] 1990年代の変化しつつある中小企業「問題」の本質、21世紀に向かって成長しつつある中小企業・中小企業「問題」の核心は何かを中心に論じたい。とくに、グローバル化と情報ネットワーク化、および先端技術革新と管理技術の発展のインパクトを重視したい。	[講義計画] (1) 経済発展と中小企業「問題」、(2) 国民経済と中小企業 (3) 産業組織と中小企業、(4) 中小企業の経営問題 (5) 中小企業の金融問題 (6) 中小企業の労働問題 (7) 技術開発と中小企業 (8) 情報ネットワークと中小企業 (9) 流通近代化と中小企業 (10) サービス経済化と中小企業 (11) 地域コミュニティと中小企業 (12) 国際化と中小企業 (13) 中小企業の組織化 (14) 中小企業政策の課題			
[成績評価の方法] 年2回のレポートと、学年末試験の評価による。	[参考文献]			
[教科書] 藤田敬三・竹内正己編『中小企業論 [第4版]』 有斐閣 1998年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域経済論		通 期	4 単位	芝 村 篤 樹
[講義概要・学習目標] 日本近代都市の形成と展開について戦後の高度経済成長期までたどり、もって現代の都市がもつ諸問題について考える。その際、主に対象とするのは大阪である。講義室を友人交流の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。	[講義計画] 1. 日本近代都市の形成 2. 1920・30年代の都市 3. 都市専門官僚制 4. 都市における戦前と戦後 5. 高度経済成長期の都市 6. 現代都市の課題			
[成績評価の方法] 夏休みレポート、講義時の小レポート（年3回程度）、期末試験。期末試験の比重は70%。	[参考文献]			
[教科書] 小山仁示・芝村篤樹著『大阪府の百年』（山川出版）	必要に応じ指示する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域政策論		通 期	4 単位	寺 中 直 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、地域政策の中でも、特に都市における住宅問題、土地問題を経済学的に考える。昨年度は、土地政策を中心に講義を行ったが、今年度は住宅政策をメインにして授業を進めたいと考えている。</p> <p>戦後わが国の住宅政策は、公営、公団、公庫の3つを柱として展開してきた。しかし現在、これらの枠組みはある種の「制度疲労」を起こしつつあるように見える。</p> <p>そこで、まずわが国の住宅政策の歴史を振り返り、次に政策を分析するための理論的ツールを紹介する。そして、国際比較を行う中で、これからの住宅政策のあり方を考えていきたいと思っている。</p> <p>履修者は、経済学理論の初歩的知識を持っていることが望ましいが、まったく知らない人でも参加できるように、時間が許す限り基礎的なことから復習しつつ講義を進めるつもりである。ただし、講義に対する「熱意」は不可欠である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の土地・住宅問題の歴史と現状 2. 土地の理論－地代、地価 3. 土地政策－土地税制、土地規制 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ、住宅問題に政府は介入するのか 2. 住宅政策の経済学的分析 3. 諸外国の動向とこれからの住宅政策 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を最終的な評価とするが、2～3回小テストを行うつもりである。詳細については、講義の中で説明するので、学期の最初と最後の授業は、出席したほうがよいであろう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>山田浩之『都市の経済分析』（東洋経済新報社、1980年） 本間義人『住宅－産業の昭和社會史5』（日本経済新聞社、1987年） 宇沢弘文・堀内行蔵編『最速都市を考える』（東京大学出版会、1992年） 宮尾尊徳『現代都市経済学』（日本評論社、1995年）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>玉井金五・大森真紀編『社会政策を学ぶ人のために』（世界思想社、1997年）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
農業経済論		通 期	4 単位	宇 山 満
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>農業の本質的な機能・役割は、人間の生存に欠くことのできない食料を生産・供給すること、国民や消費者に安全で安心できる食料を安定的に供給することにある。また、農業は多面的・公益的機能としてあげられ、近年とみに強調される傾向にある環境資源の管理者としての役割も果たしている。</p> <p>この農業による食料生産には、土地・水といった再生可能資源やエネルギー資源に代表される枯渇性資源等、各種様々な資源が投入されている。資源の効率的な利用は、本来は市場メカニズムによって保証されるはずであるが、市場の失敗によって資源配分は歪められがちで、資源配分の歪みを修正するものとして農業政策は主として位置づけられるべきである。</p> <p>本講義においては、世界及び日本の食料・農業問題の本質に関する認識を深めるとともに、これらに対してとられる農業政策がもたらす経済効果を、トータルな社会経済的視点から明らかにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期>・国民経済における農業の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の産業的特質 <ul style="list-style-type: none"> －技術的特質、経済主体的特質、商品的・市場的特質－ ・経済発展と食料需給構造 ・途上国における食料問題と農業政策 ・先進国における農業問題と農業政策 <p><後期>・日本農業の構造変化と政策課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標と手段及びその経済効果の関係 ・貿易・価格・生産・構造政策の諸特質 ・各政策間の相互関連性 ・農業の社会経済的役割と保護の論拠 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>荏間津典生（著）『農業経済学』（岩波書店） 速水祐次郎（著）『農業経済論』（岩波書店） 土屋圭造（著）『農業経済学』（東洋経済新報社） 庄源寺・谷口・藤田・森・八木（著）『農業経済学』（東京大学出版会） 嘉田良平（著）『農政の選択』（有斐閣）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
産業構造論		通 期	4 単位	庄 谷 邦 幸
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>日本の各産業はバブル崩壊後の複合不況の影響を受けて苦しんでいる。さらに海外への生産シフトによって、産業空洞化が進んでいる。各企業は生き残りをかけ、リストラクチャリング、リエンジニアリングに取り組んでいる。その結果、雇用面での不況は大きい。他方では、各企業は21世紀を展望して、新しい分野への進出、新製品の開発に真剣に取り組んでいる。この講義では、各産業、企業に活躍している第一線のエコノミストによる各産業の最新の情報・問題点を解説してもらう。</p>	<p>【講義計画】</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>1年間をI期、II期、III期、IV期に分け、各期から最低1つのテーマを選んでそれぞれの講師の出題したテーマについて、レポートを作成してもらおう。それらを総合して評価する。</p>	<p>【参考文献】</p>			
<p>【教科書】</p> <p>桃山学院大学編『産業構造論・資料集』(本学発行)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	01	通 期	4 単位	牛 丸 與 志 夫
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>会社のうち、特に株式会社についての法規制を講義する。株式会社の設立、株式、運営機構、計算、資金調達および基礎的変更についての規制を講義する。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>前期に、設立・株式程度まで講義する。残りは、後期に講義する。練習問題を解きながら講義する。</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>試験</p>	<p>【参考文献】</p>			
<p>【教科書】酒巻他5名著「テキストブック会社法」(最新版)有斐閣ブックス(有斐閣) ○ポケット六法(有斐閣) *他の出版社の六法全書もよい</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法 I	02	通 期	4 単位	本 間 輝 雄
[講義概要・学習目標] 私法上日常生活は企業と密接な関係にある。ゆえに消費者生活物資は企業によって生産され、流通にゆかれ、各社のサービスが企業を通じて消費者に提供される。しかも他面企業は労働者提供の場としてわれ私達の生活を支え、国民経済的観点からも重要な役割を果たしている。したがって、企業活動の事後性を調整する手段として把握することは、今日の経済社会の諸問題を学ぶにも不可欠である。本講義は以上の観点から企業の中核となる「株式会社」の法理を中心に、その組織・運営にかかわる法的な現行商法を主題として明らかにし、それ以外の取締役の権利と責任の関係を説明するとともに、資本主義の特色と深究する点と目標とする。	[講義計画] 上の講義項目は以下の通りである。 1. 会社法の概要 2. 会社の種類と各種会社の概要 3. 株式会社の設立とそれに対する法務的 4. 株式とは何か。株主は会社に就してどのような権利を有するか 5. 会社に就する資本関係はどのように保障されているか 6. 株式会社の運営と各種機関の関係は 7. 会社の企業会計と監査の仕組み 8. 企業資金の調達とそれに対する法務的 9. 企業の組織変更、合併とは			
[成績評価の方法] 1. 授業時間内 適宜小試験と行ない 現地の様子を採る 2. 学年末に 以上の筆記試験を実施	[参考文献] ① 本間輝雄・石村成夫編 会社法(初版) 法律文化社刊			
[教科書] ① 本間輝雄編・新会社法教室(平成19年) 法律文化社 ② 会社法(各自自由選択)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法	01	通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
[講義概要・学習目標] 独占禁止法の概要を講義する。私的独占の禁止、不当な取引制限の禁止、不正な取引方法の規制、その他を講義する。	[講義計画] 前期中、私的独占の禁止および不当な取引制限の禁止を講義する。審決・判例を参考にしながら、条文の意味も考慮する。			
[成績評価の方法] 試験	[参考文献]			
[教科書] ① 石村成夫「独占禁止法入門」(第4版)有斐閣単行本(有斐閣) ② 石村成夫・厚谷重現「独占禁止法審決・判例百選」(第5版)別冊ジュリスト No.141 (有斐閣) ③ ポケット民法(有斐閣) *他の出版社の民法全書でもよい。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済法	02	通 期	4 単位	本 間 輝 雄
【講義概要・学習目標】 今日の企業活動は「国内に止まらず」世界市場化へとグローバル展開をみせている。それ故企業は世界市場において公正・妥協な競争を有効に行なうためには、それぞれの市場に共通するルールにのっとり活動しなければならぬ。競争法はまさにこのルールを定めたものである。経済憲法といわれる所以である。本講義では、この競争法の 中 中 ^{の意義} で独占禁止法の位置と地位を明らかにした上で、その目的、公正かつ自由な競争を阻害する 独占 独占、不正な取引、不正な取引 ^{（私的）} に対する法的規制の内容を明らかにし、世界市場と国際的競争 ^{（私的）} の関係を確保し、また必要企業活動のあり方を深究する点とをその目標とする。	【講義計画】 この項目に沿って講義を進める 1. 経済法の意義と私的独占禁止法の地位 2. 独占禁止法の目的と競争法の消費者保護法としての役割 3. 独占禁止法の構造 4. 私的独占とそれに対する法的規制 5. 不正な取引の制限と法的規制 6. 不正な取引の方法と法的規制 7. 適用除外			
【成績評価の方法】 1. 必要に依り適宜授業中に小テストを行う 2. 学年末に一括筆記試験を行う	【参考文献】 厚谷謙児 独占禁止法入門 日経新聞社 (日経文庫)			
【教科書】 今村成和 「独占禁止法入門」 有斐閣	龍岡節一郎編 独占禁止法と競争 有斐閣 正田彬 (有斐閣選書)			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
多国籍企業論 (旧経済学特講—多国籍企業論)		通 期	4 単位	大 沼 穰
【講義概要・学習目標】 多国籍企業とは簡単に言えば国境を越えてグローバルに活動する企業を指す。日本に居て実感することは少ないが、少なくとも雇用や国際収支に大きな影響を与える。 本年度前期は趣向を変えて英文テキストを使用することを試みたい。多国籍企業の学習メソッドは欧米がすすんでおり、標準的テキストのない日本とは大きな違いがある。体系的に事例研究をすることができる。訳読発表を含む活発な参加を望むものである。後期は日本での研究などを紹介してゆく。	【講義計画】 <前期>英文によるケーススタディ <後期>直接投資論の世界—国際経済論的アプローチ 経営戦略論の世界—国際経営論的アプローチ			
【成績評価の方法】 出席重視	【参考文献】 江夏健一・首藤信彦「多国籍企業論」(八千代出版) 竹田志郎「国際経営論」(中央経済社)			
【教科書】 International Business (McGrawhill)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較経済体制論		通 期	4 単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「ソ連(ロシア)の経済はどんなものだった?」とたずねられたら、少し勉強した諸君ならば次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地もなく、また商品はいつも不足していた。こうした「社会主義的計画経済」が行き詰まったために崩壊して、いまでは「体制転換」といわれて、西側と同じような「市場経済」=資本主義のシステムへ移行しつつある最中だ、と。</p> <p>たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、数々の大企業のスキャンダル、倒産、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」=資本主義だということを思うと、少し考え込んでしまう。こんな矛盾だらけの資本主義が永遠に続くシステムなのか?、それに、社会主義とは本来資本主義の矛盾を克服する体制だったはずなのでは?、ソ連は本当に社会主義だったのか、崩壊したのは本当に「社会主義」体制のためだったのか?等々。この講義は、こうした疑問をじっくり考えることを目標としています。講義では、①旧ソ連の経済体制をどう考えるか、②社会主義とは本来どのようなものか、③わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、④ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <p>第Ⅰ部 ソ連経済史概説-「社会主義経済」だったのか?-</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 十月革命 2. ネップ(新経済政策)の試み 3. 大転換とソ連型経済制度の成立 4. ソ連経済の構造と矛盾 5. 経済改革から「体制転換」へ <p><後期></p> <p>第Ⅱ部 社会主義とは何か-マルクス・エンゲルスによる基本理念-</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 資本主義の基本矛盾 7. 現代資本主義と民主主義・社会主義 8. 社会主義的将来の本質と発展 <p>第Ⅲ部 「体制転換」の虚像と実態</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ロシアにおける「体制転換」 10. 未来はどこに 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>資料プリントを頻繁に配布しますので、講義への出席を重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しません。しかし、重要な参考文献を随時指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際金融論		通 期	4 単位	露 谷 硯 児
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>最初に国際的取引のメカニズムについて学習する。</p> <p>その後国際収支と国際通貨の諸概念とその動向について学び、次いで国際決済手段としての外国為替の仕組み、外国為替市場、為替相場の決定要因等について講義する。</p> <p>次に国際金融市場(ユーロ市場ほか)と国際資本移動、ユーロ取引と金融派生商品取引の学習を行う。</p> <p>最後に国際通貨制度の歴史と現状、理論について学習し、その当面する諸問題(EU統合、アジア通貨危機等)について理解を深めることを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は国際収支・国際通貨のメカニズムと外国為替の学習に重点を置く。</p> <p>後期は国際金融市場および国際通貨制度の学習を中心に進行する。</p> <p>たまた新しい印刷を不国際金融の動向については新聞や雑誌の関連記事を利用して適宜解説を行ない、資料配布とする。</p> <p>またビデオによる学習も前・後期とも2-3回づつ実施する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主に学年度末テストの結果によって評価するが、他に出席状況や夏休み後のレポート提出等も参考とする。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>大蔵省国際金融局編『図説国際金融』(1996年版) (最新版は向山友之『1998年版』) 経済新聞社刊</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経済論		通 期	4 単位	三 邊 信 夫
[講義概要・学習目標] <p>この講義では、国際経済学の基礎理論を解説する。国際経済学は、国際間における取引 (trade) つまり貿易に関する事柄を研究対象としている。取引である限り最低2つの国 (または2人) および2つの財貨の存在が必要である。貿易は両国間の効用関数の差異 (つまり両国民の間の趣好の差異) があれば行われるが、その財貨が生産物である場合、生産関数が問題となる。財貨を生産する技術や生産要素、つまり労働や資本の要素賦存量の国際的差異を考えに入れなくてはならない。価値または価格という場合も生産物間の交換比率だけではなく、生産要素間の交換比率つまり要素価格比率 (または分配率) および両者の間の関係が考慮されねばならない。さらにこれらの基礎的条件が変化した場合、具体的には、技術進歩や資本蓄積、労働人口の増加が行われたとき、交易条件やその国の生活水準に及ぼす影響なども分析される。</p>		[講義計画] (前期) 1. 比較生産費と国際的賃金格差 2. 多数国多数財貿易、有効生産パターン、賃金構造と特化 3. 交換経済、オファー曲線、貿易利益 4. 均衡の安定性、マーシャル・ラーナーの安定条件 (後期) 5. 生産論、等生産量曲線と生産可能曲線 6. 貿易方向の決定、ヘクシャー・オリーン理論、国の規模、技術進歩 7. 要素価格均等化論、ストルパー・サムエルソン理論 8. 比較生産費基準と所得弾力性基準 9. 経済成長と交易条件		
[成績評価の方法] <p>出席、試験、レポート</p>		[参考文献]		
[教科書] <p>三邊信夫 (著)『国際貿易と経済成長理論』(大阪市立大学経済学会)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア経済論		前期集中	4 単位	敵 善平
[講義概要・学習目標] <p>この頃、新聞、雑誌、テレビなどを通してアジアの様々な情報が日本に伝えられている。人々の関心がアジア地域に移りつつあることは紛れもない事実であろう。 本講義は、日本をはじめ、アジアNIES、ASEAN諸国および中国から構成されている西太平洋地域を中心に、そこにおける経済成長と構造変化のメカニズム、各国経済の相互依存関係などを分かりやすく解説し、またその他アジア諸国の経済状況についても最新の情報を紹介するものである。 この講義を受けることにより、マスメディアがよく取り上げている様々なアジアの話題をより深く理解することができるだけでなく、途上国の経済開発の基本問題や日本など先進国の果たすべき役割などについても自らの分析能力も向上するであろう。</p>		[講義計画] 一. 西太平洋地域経済のパフォーマンス 1. 東アジア、東南アジア経済の過去といま 2. 西太平洋地域における雁型経済発展のメカニズム 3. 西太平洋地域における経済の成長と構造変化と相互依存 4. アジア経済の未来をどう見るべきか 二. アジア経済の捉え方 1. 経済開発の基本的課題 ー 発展の目的は何か 2. 伝統産業＝農業と近代産業＝工業 ー 工業化戦略のあるべき姿 3. 経済開発と援助・貿易・投資 ー 先進国の役割とは 4. 後発国における経済開発と政府の役割 ー 開発独裁が必要悪か 5. 経済開発はすでに限界に達したか ー 環境制約はどうすべきか		
[成績評価の方法] <p>前期集中の講義ですので、夏季の試験で成績を判定する。</p>		[参考文献] <p>講義中、関連する最新の資料を配布する。</p>		
[教科書] <p>渡辺利夫他『図説アジア経済論 (第2版)』日本評論社、2200円 (生協にて一括購入し販売する)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ヨーロッパ経済論 (旧経済学特講－ヨーロッパ経済論)		通 期	4 単位	大 沼 穰
[講義概要・学習目標] 現代の政治経済は再編の渦中にあり、ヨーロッパとしてその例外ではない。2度の大戦はヨーロッパの没落を帰結したが、起死回生を賭けてヨーロッパが選択したのは経済統合の道であり、これは今なお壮大な実験の途上にあると言える。「拡大と深化」を繰り返しつつ西欧南欧に広がったこの動きは、冷戦の終焉とともに東欧北欧をも巻き込みつつある。まず国家を越えた新たな実験単位EUの経済的意味を考察することから始めてゆきたい。	[講義計画] 〈前期〉○EUの経済学 a. 統合の歩み b. マクロ経済 c. 産業と企業 d. 貿易 e. 農業問題 f. 通貨統合 〈後期〉○主要国の経済的個性 a. サッチャリズムとイギリス b. 社会党政権とフランス c. 東西統一とドイツ			
[成績評価の方法] レポート提出、および定期試験などを総合して評価する。	[参考文献]			
[教科書] 内田勝敏・清水貞俊「EC経済を見る眼」(有斐閣新書・有斐閣)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカ経済論 (旧欧米経済論)		通 期	4 単位	中本 悟
[講義概要・学習目標] 本講義では現代アメリカ経済の構造と発展について、いくつかの領域に分けて講義する。アメリカ経済において生じてきたことは、遅かれ早かれ日本においても生じてきた。 しかし、アメリカで生じたことが同じ形で日本やアジアで生じているわけではない。アメリカにはアメリカ固有の経済制度、経済法、行政機構、イデオロギーがあり、日本とは異なった形態で問題が生じ、したがってまた異なった解決がなされることが多い。この意味では、こんにちの主流派の経済理論がアメリカ経済を土台として書かれており、日本経済およびアジア経済研究を土台に経済理論の創造的発展が求められていることも、本講義を通じて理解できるであろう。こうしてアメリカ経済を知ることが日本経済をいっそう深く知ることになろう。本講義においては、それぞれの主題について、問題の構造と歴史的展開、現状、政策課題について解明するとともに、とくにアメリカ経済の比較制度的研究を重視する。	[講義計画] 講義は、I部とII部から成り、各主題ともに2回程度の講義である。 I部 アメリカ経済の基本構造 ①産業構造と企業経営 ②多国籍企業とアメリカ経済 ③軍産複合体とハイテク産業 ④農業とアグリビジネス ⑤在米外資系企業とアメリカ経済 ⑥金融市場の発展と金融革新 ⑦財政・金融政策 II部 アメリカ経済の対外関係 ①アメリカの貿易構造 ②通商法と通商政策 ③貿易自由化と産業調整制度 ④アジアとアメリカの経済関係 ⑤日米貿易摩擦 ⑥NAFTAとアメリカ経済 ⑦労働市場・所得分配・生活水準			
[成績評価の方法] 講義のあとで、時に応じて講義の感想を書いてもらう。年度末の試験の成績が評価の基本です。	[参考文献] 横田 茂(編)『アメリカ経済を学ぶ人のために』 (世界思想社、1997年)			
[教科書] 前期は、平井・萩原・中本・増田(共著) 『概説アメリカ経済』(有斐閣) 後期は、別途指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
中国経済論		通 期	4 単位	翟 林 瑜
〔講義概要・学習目標〕 中国は、ここ 10 数年来年平均 2 桁の経済成長を遂げており、社会の各方面においても近代化が進んでいる。この大きく変貌している現代中国はどんな歴史的な過程を歩んできたのか、その経済制度はどうなっているか、中国の企業改革はどこまで進んでいるのか、といったようなことを勉強することで中国に対する理解を深めたい。	〔講義計画〕 中国経済を理解するために、現代中国全般に関する最低限の知識が必要なので、授業の最初には現代中国の概況について紹介する。続いて中国の経済体制、経済関連の法制度、企業改革と証券市場整備を中心に中国経済について勉強する。			
〔成績評価の方法〕 平常成績とテストの成績で評価する	〔参考文献〕			
〔教科書〕 朱建榮その他『現代中国概論』柏書房、1998年3月出版予定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法 I		前期集中	4 単位	林 錫 璋
〔講義概要・学習目標〕 日常生活の中で、もっとも関係の深い契約を中心に、契約の種類、契約の解釈、契約の当事者、契約の成立要件、そして、契約の無効と取消、債務不履行による契約解除と損害賠償、代理、無権代理などの問題につき、関連する法令をも含めて、民法の通説的理論及び判例を総合的に解説する。さらに、割賦販売、訪問販売、通信販売、クレジット契約、リース契約など現代の特殊契約の仕組みとその問題点についてもとりあげる。 なお、債権の発生原因である不当利得、事務管理、不法行為なども順を追って講述する。	〔講義計画〕 1, 市民法の現代的意義とその変貌 2, 私権とその制限 3, 取引安全の保護 4, 時効制度について 5, 物権的請求権について 6, 契約の意義と種類 7, 契約の内容と解釈 8, 契約の当事者と契約の成立 9, 無権代理と表見代理 10, 意思表示の不一致 11, 瑕疵ある意思表示 12, 契約の無効 13, 契約の取消 14, 同時履行の抗弁と不安の抗弁 15, 危険負担 16, 契約の法定解除と約定解除 17, 債務不履行 18, 割賦販売・訪問販売と消費者 19, リース契約 20, クレジット契約 21, 不法行為による損害賠償 22, 過失責任と無過失責任 23, 交通事故による損害賠償 24, 公害と環境問題			
〔成績評価の方法〕 年度末試験を重視し、レポートと出席を加味して総合評価する。	〔参考文献〕 甲斐道太郎・石田喜久夫（編）『民法教室（1）（2）』（法律文化社）			
〔教科書〕 谷口知平・甲斐道太郎（編）『新版 現代民法入門』（法律文化社） 判例六法編集委員会（編）『コンサイス判例六法』（三省堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民法Ⅱ		通 期	4 単位	米 山 隆
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>債権と物権との交錯。 債権が金融資本として優越していることを 總論とする。 債権関係の崩壊として、履行不能、履行 遅滞、積極的債権侵害、^{過剰}信義誠実を各論とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1-1をとること、市販の教科書にのべられていない ことを強調する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。期末試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>次のつと照会する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>とくに使わない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商法Ⅱ		通 期	4 単位	牛 丸 與志夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>手形法、小切手法の基礎的な知識の修得をめ ざす。手形の振出、裏書、支払、為替手形の特別および 小切手の特別をみていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期で、手形の振出に関する種々の問題を考察する。 後期で、残りの部分を講義する。練習問題を 解きながら、年講義する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>・田中昭初他ら「テキストブック手形法、小切手法」 有斐閣ブックス (有斐閣) ・ポケット六法(有斐閣) *他の出版社の六法全書もよい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
行政法		通期	4単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論的体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開の意義についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないのが、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期 行政法の基礎的問題</p> <p>§1 行政と行政法</p> <p>2 法律による行政法の原理</p> <p>3 行政組織と行政立法</p> <p>4 行政救済法の概略</p> <p>5 行政行為の概念</p> <p>6 行政手続</p> <p>後期 行政行為と行政過程</p> <p>§7 行政行為の種別</p> <p>8 行政行為の瑕疵</p> <p>9 職権取消と撤回</p> <p>10 行政計画</p> <p>11 行政強制</p> <p>12 行政調査</p> <p>13 行政指導</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出出席いかん、授業時間内に行うテスト等も評価に加味する場合がある。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>塩野宏『行政法 I』有斐閣</p> <p>原田尚彦『行政法要論』学陽書房</p>		
<p>[教科書]</p> <p>小高 剛著『行政法総論』ぎょうせい</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済と法コース特講 (現代株式会社と法)		通 期	4単位	吉 見 研 次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、受講生が会社法の基礎的な知識を有することを前提に、現代株式会社（とくに巨大株式会社）の法的諸問題について講述する。各々の問題につき現状を説明した後、あるべき方向について考えてみたい。取り上げる問題は『商法概論』や『商法I』と重複するものも少なくないが、異なる角度から検討を加えるつもりである。</p> <p>なお毎授業時に『六法』を携帯すること。私語も遅刻も厳禁。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I 現代株式会社内部の諸問題</p> <p>(1)所有と支配 (2)株主総会</p> <p>(3)取締役・監査役 (4)株主代表訴訟</p> <p>(5)新株発行 (6)利益分配</p> <p>II 現代株式会社の対外的諸問題</p> <p>(1)政治献金 (2)社会的責任</p> <p>(3)企業と消費者</p> <p>III 現代株式会社と会社法理論</p> <p>(1)株主権の理論 (2)経営とその監督</p> <p>(3)株式会社と現代社会</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>論述式の学年末テストを予定している。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>芦部信喜他編『コンパクト六法1998年版』(岩波書店)</p> <p>岩崎 稜他『セミナー商法』(日本評論社)</p> <p>その他、授業時間中に適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
〔講義概要・学習目標〕 <p>「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史の学習とは年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。</p> <p>この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。</p>	〔講義計画〕 <p>この講義は、教職科目であり将来、社会科教師として実際に教壇に立つことを目指す人を念頭において、進めてゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の講義 <ol style="list-style-type: none"> 1、歴史研究の持つ問題性 2、ヨーロッパ中心史観の問題性 3、現代史をどう解釈するか。 ・模擬授業の実施 担当者の講義のみならず、受講生の模擬授業を積極的に取り入れる。とりわけ、4回生諸君は教育実習を控えているわけであるから、まず4回生から模擬授業を行ってもらおう。 ・ビデオ上映 現代史と歴史学習に関するビデオを見てそれに関するレポートを提出してもらおう。 			
〔成績評価の方法〕 <p>学年末試験や、模擬授業・ビデオについてのレポートで総合的に判断する。</p>	〔参考文献〕 <p>授業中に指示する。</p>			
〔教科書〕 <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	通 期	4 単位	和 栗 珠 里
〔講義概要・学習目標〕 <p>歴史教育とは、人名や年号など史実の詰め込みではなく、人類がたどってきた歩みを知り、我々が生きる現代世界のあり方をも理解することでなくてはならない。そのためにはまず、広い視野に立って歴史の流れを把握することが重要である。この講座では、世界史の枠組みが大きく変化した16世紀から19世紀までのヨーロッパを中心に、近代社会がどのようにして形成されてきたかを見ていく。前期では経済や人々の生活の面から、後期では政治的な面から、「近代化」の問題を考えたい。また、講義で論じた内容が実際の歴史教科書や大学入試問題でどう扱われているかを見る機会もつくる予定である。必要に応じてビデオやスライドなど視聴覚教材も用いる。</p>	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代社会とは何か 2. 大航海時代と諸変革 3. 帝国主義 4. 戦争と革命 5. 現代への展望 			
〔成績評価の方法〕 <p>前期レポートと後期試験を中心に評価するが、その他に数回簡単な感想文などを提出してもらい、判断材料に加える。</p>	〔参考文献〕 <p>大下尚一/西川正雄/服部春彦/望田幸男 編 「西洋の歴史〔近現代編〕」(ミネルヴァ書房)</p>			
〔教科書〕 <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然地理学	01	通 期	4 単位	野尻 亘
	02	通 期	4 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>地理歴史科および中学校社会科の教職科目として自然地理学の履習が必要となっている。本来、自然地理学は多岐の内容にわたっており、文系の学生にとって履習の嫌われる科目の一つであろう。</p> <p>しかし、本講義では、人間の生活環境として、自然との関係についてわかりやすく説明することとしたい。</p> <p>前期は環境思想の系譜について、ヒューマン・エコロジーの考え方を概説する。</p> <p>後期は、日本の気候・地形・植生などの各地方別の特徴について紹介する。また教員採用試験に時おり出題される地形図読解問題については、プリントを配って、解答指導することにつとめたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉1. 環境教育と公害教育 2. 個体群・群集・生態系の概念 3. 環境思想の系譜 4. ヒューマン・エコロジーの思考 5. 最近のエコロジー思想</p> <p>〈後期〉6. 日本列島の成立と地形の特色 7. 地向斜造山からプレートテクトニクスへ 8. 火山と地震 9. 断層と地すべり 10. 日本の気候区分 11. 日本の植生地域区分 12. 災害と人々の生活 13. 自然地理学の発展と課題</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履習状況をみて決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤田和夫『変動する日本列島』岩波新書 黄306 平 朝彦『日本列島の誕生』岩波新書 新赤148</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中野尊正・小林国夫『日本の自然』岩波新書 青621</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	01	後 期	2 単位	野尻 亘
	02	後 期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>〈後期〉1. 地理学と地誌との違い 2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念 3. 地域学習の教材をどのように見出すか 4. ヨーロッパの統合 EUの形成とその課題 5. 旧西ドイツの外国人労働者問題 6. アメリカ合衆国 開拓の理想と現実 インナーシティ問題 7. ラテンアメリカ モノカルチャー経済の悩み 8. オーストラリア 白豪主義の克服 日本による資源開発 9. オセアニア 核実験に抗議する島々の暮らし 10. アフリカ 砂漠化と食糧問題 11. シベリア 開発とその課題 12. アジア NIEs諸国の経済発展</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履習状況をみて決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中学・高校時で使用した「地図帳」（出版社を問わない）を持参していただければ望ましい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
職業指導		通 期	4 単位	松 原 勇
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>21世紀を担う職業人は、高い志を持つと共にエネルギーに満ちた豊かな人間形成をはたすことが最大の使命である。今日、企業社会が強く要請している人材は、優れた職業倫理を身につけ、自覚と責任を持って職務に情熱を傾け、自らの能力ある原性を磨き、もてる能力を最大限に発揮できるように知識、技術の修得が求められる。</p> <p>本講では、その趣旨を踏まえ、グローバルスタンダードに示される職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして、職業能力の適性を伸ばすこと、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。</p> <p>併せて、就職準備のための「期待される新入社員像」とを網羅して、表現能力等の方法論の実践指導もはかる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 1. 職業指導と生涯教育 2. 職業指導の重要性 3. 就職活動への指針 4. 就職試験の実践指導</p> <p>(後期) 1. 業務の上手な進め方 2. ビジネス文書の書き方 3. 電話の取扱ひ方 4. 職場の人間関係</p>	<p>5. 学生生活と社会生活の相違 6. 働くことの意義 7. 職業人の心得</p> <p>5. 表現能力の指導 6. 一流ビジネスマンへの指導 7. 職業人の基礎知識等</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>主として、出席を厳しく重視して評価する。併せて、学年末試験の成績等も勘案のうえ、総合評価とする。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>松原 勇(著)「新ビジネスマンの基礎知識」(ごようせい)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	01	通 期	4 単位	鈴木 富久
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前期では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者達の諸理論の学習をしてもらう。後期では、歴史的現実の次元に移って世界システム論の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと議論を展開する。後期は、ビデオ学習を多用する。</p> <p>全体の学習目標は、専門としての社会学の視野や方法論、基礎知識を学ぶと同時に、それを通じて、学問的な探究と思考のスタイルをも習得することにあるので、論文・その他のレポート執筆をたびたび課する予定である。</p> <p>受講生の姿勢としては、毎日、新聞を読み、テレビニュースを観る習慣を身につけ、社会問題の特集番組等にも関心をはらって、自らの関心と問題意識を発展させるように努めることが大切である。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>【前期】</p> <p>序. 社会学とは何か 第Ⅰ部. 基礎概念 §1. 社会的存在としての人間 §2. 行為と文化・社会規範 §3. 組織と集団 §4. 「社会化」と国家 *併行して諸社会学理論の学習(『人間再生の社会学論』各章の読書感想文提出。夏休み課題: 自分で選択した一冊の古典・基本文献のブックレポート提出)</p> <p>【後期】</p> <p>第Ⅱ部. 世界社会学の視野と現代日本社会 §1. 世界システム論と受動的革命論 §2. 日本の近代化過程 §3. 戦後日本社会の展開(ビデオ学習) NHK「欧米人の見た日本の戦後」 ①戦火のあと, ②飛躍的復興, ③奇跡の高度成長, ④オイル・ショック NHK「戦後50年・あの時日本は」 ①60年安保と岸信介, ②三池争議 *それぞれの感想文提出 §4. 現代日本社会の構造的把握に向けて</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>①出席点、②前期・後期試験成績、③レポート成績(論文・読書感想文・ビデオ感想文等)、等を総合して評価する。(レポートの遅延提出は減点。)</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 ウォルフレン『日本・権力構造の謎』(上・下)早川書房(文庫版あり) 渡辺治『豊かな社会』日本の構造』労働旬報社 見田宗介『現代社会の理論-消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 社会学の専門辞典は必需である。推薦: 浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。 その他、上記『社会学講義ノート』132-133頁参照。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>鈴木富久『社会学講義ノート』(私製) 小林・他『人間再生の社会学論』創風社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	木下 栄二
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>本講義では、観察法、アンケート法という二つの調査技法の実践を通して、主に数字の形で社会的現実を捉える調査法の修得を目標とする。講義では、まず社会調査の歴史、社会調査と社会学理論の関係、社会調査の論理などを説明したのち、最も基礎的な調査技法である観察法について実習してもらうことになる。後期は、現在の社会調査の主流をなすアンケート法とその統計的解析の技法について実習してもらうことになる。実習の成果は、いずれもレポートとして提出してもらい、成績評価の重要な要素となる。</p> <p>本講義の特色は、前期・後期ともグループ作業による実習が授業の大半を占める点である。このため、出席および授業態度は極めて重要な成績評価の基準となることを受講生全員が肝に命じておいてもらいたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <p>(1) 社会調査への招待(4~5月): 社会調査とは何か、社会調査の歴史、社会調査と社会学理論の関係、社会調査の論理などを説明する。やや退屈な講義となるかも知れないが、社会調査の実践および調査結果の正確な解釈のためにはとても重要なことなので、我慢して聞いてほしい。</p> <p>(2) 観察法の学習と実習(6~7月): 社会調査のネタは我々の身の回りに幾らでもある。我々が五感で感じることを整理することが社会調査の第一歩である。そこで、前期は観察法という技法の学習と実習を行う。実習の成果は、夏休み前までにレポートとして提出してもらう。</p> <p>(3) 確率論の基礎知識の習得(9~10月): 現在の社会調査の中心である統計的解析法の基礎である確率の初歩的な知識について説明する。</p> <p>(4) アンケート調査の学習と実習(11~12月): 調査票の作成、データの収集、データの解析等についての学習と実習を通して、アンケート調査法および統計的解析法を学ぶ。実習の成果は、冬休み前までにレポートとして提出してもらう。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>前期レポート、後期レポート、後期試験の3つが、それぞれ同じウェイトで成績評価の対象となる。そのほかに出席点、自由課題レポート点なども加算して総合点で判断する。詳細は最初の授業にて説明する。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>S・ウェップ、B・ウェップ(川喜多訳)『社会調査の方法』東京大学出版会 G・イーストホープ(川合・霜野訳)『社会調査方法史』慶応通信 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書 P・G・ホーエル(浅井・村上訳)『初等統計学』培風館</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	03 04 05	通 期 通 期 通 期	4単位 4単位 4単位	竹中英紀
〔講義概要・学習目標〕 新聞やテレビのニュースを見ると、「これこれの意見を持つ人が何パーセント」というふうに、しばしば社会調査の結果が報じられている。あのデータは、いったいどのようにして作り出されているのだろうか。なぜ、ごくわずかな人たちだけを対象にして、全体の傾向を推測することができるのだろうか。 いうまでもなく、社会学にとって社会調査は、データ収集の基本的な方法として位置づけられる。社会調査が正確で信頼に足るものであるためには、調査票の設計、標本抽出、調査の実施、データの集計、分析・解釈の各段階において、確立されている技法に厳密にしたがわなければならない。 この授業では、社会調査の意義と基本的な技法について解説し、あわせてグループ単位・個人単位でのかんたんな作業実習を体験してもらうつもりである。	〔講義計画〕 〈前期〉 (1)社会調査の意義と基本的な考え方 (2)「アンケート調査」の結果をどう読むか (3)社会調査のさまざまな技法 〈後期〉 (4)統計的調査の進め方 (5)コンピュータの利用とデータ分析 (6)レポートの作成			
〔成績評価の方法〕 筆記試験、レポート、出席状況を総合して評価する。	〔参考文献〕 佐藤那哉『フィールドワーク』（新曜社） 井上文夫ほか『よりよい社会調査をめざして』（創元社） 森靖雄『地域調査入門』（自治体研究社）			
〔教科書〕 森岡清志編『ガイドブック社会調査』（日本評論社）				

「社会学部文献演習」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	大西 雅裕	198	06	谷 富夫	199
02	片桐 新自	198	07	野々山 久也	200
03	片桐 新自	198	08	藤森 勉	200
04	捧 堅二	199	09	大谷 信介	201
05	谷 富夫	199	10	村上 公敏	201

〔注意〕

- (1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、社会学部教育科目のコース選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。
 - 〈日 時〉 3月23日（月） 9時20分～15時00分
 - 〈申込受付〉 学務課窓口
 - 〈注〉 曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学部文献演習	01	通 期	4単位	大 西 雅 裕
<p>〔講義概要・学習目標〕 近年の社会福祉の動向は、いわゆる“社会福祉改革”のもとで従来の“施設型”社会福祉から“地域型”社会福祉へと今まさに転換にあるといえる。この状況は、老人福祉分野をはじめとして児童、障害者等の各分野においても、同様の動向の中で具体的展開がなされてきている。 このような中本演習では、基礎演習での学習を踏まえ、老人、児童、障害者等の各分野での今日的課題を新聞、研究誌等から取り上げて、学生個人、またはグループにより、自らが調べ、自らが考え、学ぶといった主体的学習を基本として、ディスカッションを中心にすすめる。</p>	<p>〔講義計画〕 <前期> 今日の福祉課題を扱った資料をもとに、講読と学生相互のディスカッションにより、その課題の理解を深める。 おおよそ以下の予定で進める。 1) イントロダクション 2) 社会福祉の現代的背景 3) 分野別諸問題とその対策 <後期> 各分野別にグループ等を編成し、それぞれに課題を設定して、資料、文献による検討を行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 * 出席状況と授業での積極的参加活動等による総合評価を行う。 * その都度、レポート課題を課す。</p>	<p>〔参考文献〕 適宜紹介する。</p>			
<p>〔教科書〕</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学部文献演習	02	通 期	4単位	片 桐 新 自
	03	通 期	4単位	
<p>〔演習概要・学習目標〕 本演習では、現代の社会学の焦点になりつつある主要なテーマに関して、知識を深めてもらう。具体的には、環境、国際、ジェンダーなどである。 また、文献演習は、少人数クラスなので、議論を活発に行いたい。2回生のためのゼミだと考えてほしい。この演習を通じて、専門ゼミで本格的な社会学研究を行いうような基礎力（以下にあげる）を養ってほしい。 (1) 問題を発見する力を養う。 (2) 自ら調べる力を養う。 (3) 論理的なレポート書く力を養う。 (4) 説得的な報告をする力を養う。 (5) 議論する力を養う。</p>	<p>〔演習計画〕 具体的な進め方は、受講者数や受講者の関心によって変えて行くつもりだが、とりあえず教科書に指定した『現代社会学』の主要な章を輪読し、その後自分たちで読みたい本を選んで報告・発表してもらう予定である。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 レジュメやレポートの出来、発表の仕方、出席、積極性などを総合的に判断して評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 授業開始後配布する。</p>			
<p>〔教科書〕 宮島喬編『現代社会学』有斐閣</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学部文献演習	04	通 期	4 単位	捧 堅 二
[演習概要・学習目標] いくつかのトピックスを中心に現代史・同時代史のリアルな認識をめざす。 具体的には、藤原彰の本によって時代を全体的に把握しつつ、読み易く、おもしろく、かつ有益な本を数冊読む。 しばしばビデオを利用する予定である。関連する小説も適宜紹介したい。 現在の論壇の状況も分析したい。	[演習計画] 終戦と天皇制 帝銀事件と731部隊 M資金 講和と安保 ロッキード事件と田中角栄 プラザ合意と平成不況 リクルート事件から佐川事件へ 55年体制の崩壊			
[成績評価の方法]	[参考文献] 五木寛之『風の王国』（新潮文庫） 桑郁彦『昭和天皇五つの決断』（文春文庫） 森村誠一『新版悪魔の飽食』（角川文庫） 松本清張『小説帝銀事件』（角川文庫） 萩原遼『朝鮮戦争』（文春文庫）			
[教科書] 藤原彰（著）『体系日本の歴史・第15巻・世界の中の日本』（小学館ライブラリー） 吉田裕『昭和天皇の終戦史』（岩波新書） 松本清張『日本の黒い霧』（下）（文春文庫） 立花隆『田中角栄研究』（下）（講談社文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学部文献演習	05 06	通 期 通 期	4 単位 4 単位	谷 富 夫
[演習概要・学習目標] 社会学の古典は親しむ。社会学に限らずどんな学問でも、古典は学習の出発点であり、それ、繰り返し読むに価する知識の源である。しかし古典はとつぎにくく、一人で学習するには困難なところもあるので、この機会に共同で取組み、古典的文献を身近なものにしてもらいたい。	[演習計画] この教科書を一年かけて読み切る。 授業の進め方については、1回目の時間に指示する。			
[成績評価の方法] 出席状況、授業態度、報告の質、学期末レポートの出来具合、等々と総合的に評価する。	[参考文献] 授業で随時指示する。			
[教科書] マックス・ヴェーバー（大塚久雄訳）、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学部文献演習	07	通 期	4単位	野々山 久 也
〔講義概要・学習目標〕 <p>本書は、社会学とくに家族福祉に関心のある学生に読んでもらいたい文献である。観察法にもとづいて研究した成果を家族システム論として展開している貴重な文献である。フロイトの精神分析のメカニズムを彷彿させるような詳細な家族システムのメカニズムの分析を展開させている。臨床的アプローチの基礎理論を提示してくれているといつてよい。専門書を読むことは、確かに小説や週刊誌を読むとは異なって容易ではない。じっくりと腰を落ち着けて読みはじめなくてはならない。しかし読み終えたあとの満足感の小説や週刊誌の比ではない。</p> <p>本書は、なかなか難解である。しかし対象が家族であることから全く理解できないなどということはない。ただシステム論的アプローチを家族に適用していくプロセスには気は抜けない。読み終えたあと、家族システム論的分析への興味は倍増するはずである。</p>	〔講義計画〕 <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内側からの研究 2. システム理論的アプローチ 3. 3つの下位システム 4. 接近次元と目標次元 5. 接近の方法－空間－ 6. 接近の方法－時間－ 7. 接近の方法－エネルギー－ <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接近の方法－計画と戦略－ 2. 家族の種類－構造的配置－ 3. 家族の種類－目的、欠陥、理想 4. 家族内の個人－4単位の構成 5. 家族内の個人－戦略的相互作用－ 6. 距離調節のモデル 7. 家族の発達 			
〔成績評価の方法〕 <p>授業中の発表と夏休みのレポートと期末テストの総合的な評価で成績を決定する。出席も重視する。欠席の回数によっては単位を出さない。</p>	〔参考文献〕 <p>(1) 野々山久也(編)『家族福祉の視点』ミネルヴァ書房、1992年 (2) 野々山久也ほか(編)『いま家族に何が起っているのか』ミネルヴァ書房、1996年 など。</p>			
〔教科書〕 <p>カンター＝レア(野々山訳)『家族の内側－家族システム理論入門－』垣内出版、1988年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学部文献演習	08	通 期	4単位	藤 森 勉
〔演習概要・学習目標〕 <p>近年、環境に関するさまざまな問題が大きく取り上げられている。それは、地球規模・国際規模といった大スケールのものから、一国内や一地域内といった小スケールのものであり、問題の所在も多岐に及んでいる。従来から、環境と人間の関わり方を問題としてきた地理学にとっては、その実態を把握し、解決の方法を見つけるべき努力は重要な課題である。本演習では、さまざまな環境問題を取り上げながら、地理学の基本的なアプローチの仕方について理解を深めさせたい。</p>	〔演習計画〕 <p>新訂人文地理に掲載されている20編の論文から、各自関心の深い論文を選んで解説を行わせ、討論によって内容を深めさせる。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>授業中の発表・討論、小レポートをもって評価する。</p>	〔参考文献〕			
〔教科書〕 <p>末尾至行・橋本征治編 新訂人文地理 大明堂発行</p>				